第6回青森県水産業改良普及事業協議会資料

私たちの水産業改良普及研究

とき　昭和39年10月16日

ところ　青森市市民会館

青森県水産まつり

青森県水産業改良普及会

6回

目　　次

たこイサリ曳きから樽流しまでの漁具漁法の改良
尻屋漁業研究会……川島洋悦……1

私達のグループ活動
白糠漁協婦人部……伊勢田かな……11

ほたてがい垂下養殖について
奥内漁業研究会……工藤豊造……20

研究活動を省りみて
佐井村1本釣研究会……島野芳之……27

私達の婦人部活動
鰺ケ沢漁協婦人部……見崎アイ……30

のり乾燥室の改良について
小湊海苔養殖研究会……工藤喜代作……34

あかるい村づくりを目ざして
十三あけぼの会……安田きさ……41

私が研究グループの歩み
深浦漁業研究会……中川三蔵……45

6回 39.10.16 青森市民会館

たこイサリ曳きから樽流迄の漁具，漁法の改良

尻屋漁業研究会　川島洋悦　23才

1. 地区の概要

私達の住んでいる尻屋は，本州最東北端に位置していて，部落の戸数は57戸あり，その内漁家は40戸の半農半漁の部落であります。漁業協同組合は60名で，昭和38年度結成した漁業研究会は，会員34名で漁具，漁法の導入，改良研究と未開発漁場の発見，開発利用を中心に活動しています。

2. 研究の動機

私達の住んで居る所は，毎年1月から5月迄はマス曳き釣漁業を行っていますが，近年段々とマスが不漁のため漁獲高が減少して来ているので，この時期に37年大間方面より導入した，たこイサリ曳漁業を，マス漁の片手間に操業していますが，このイサリ曳きをもっと能率的に行う方法を研究し，38年春には一本釣より能率的なガラス玉による，玉流し漁法えと研究改良が進み，更に38年11月にはタコ樽流し漁業の先進地である，茨城県大洗町に尻屋駐在の漁業普及員と，同じ村内の他部落の研究会員が，漁具，漁法の研修に行って来たので，この漁具，漁法の講習指導を普及員，研究会員より受けて，樽流しの実地操業を行う様になり，それに伴って，この地区に合った漁具，漁法の改良研究に着手したわけであります。

3. 研究改良の経過

(イ) 漁具の改良を実施した

第1図に示した様に従来の漁具，イサリは鉄製で，しかも針の数が22本と多く，1K 850と重く，1人で1ゴしか漁具の使用が出来ず，1個270円と割高です。1人で能率的にたこを漁獲出来る様に研究して，第2図の様に昭和38年4月に改良しました。この改良型はガラス玉に道糸を付けて，潮の力によりイサリを海底に付けて流す方法で，一人で五個も流せ結果は良かったのですが，鉄製イサリは型が大きく針の数も多いために，根や海草に引っかゝりやすく，又重いため潮流で流れる速度が遅いと言う欠点がわかったので，第3図の様に，自分で溶かし目方も1.2Kgと従来のものより650g軽くし，針の数も17本と5本減したイサリを作製しましたが，たこのかゝりは鉄製と変りありませんでした。作製費も1個174円と安く付きましたが，もっとも安くイサリを作製出来ないものかと思って，海岸の玉石を利用してイサリを作製しました。目方は1.2Kgと鉛製と同じ

にし，針の数は14本ところ本減しましたが，たこの乗り方は同じでした。しかし，玉石を針金で固定するのに手間がかゝり，又操業後毎日針金をしめなをさなければならず，もっと簡単な方法を研究しなければと思う様になり，種々と考えましたが，6月に入り終漁期になったので，38年は一応こゝで研究を中止致しました。39年3月に入り〔第5図〕の様に茨城県大洗町の樽流し漁具の講習指導を受け，セメントと竹で出来ているイサリを見て，これは良いものだと思い，早速大洗町と同じ道具を作成し，操業して見ましたが，大洗町の方は和名マダコの1.2Kg～3Kgのものを取っているのだそうで，尻屋地区では和名水ダコ10Kg～15Kgのものを漁獲するので，イサリが小さく20Kg位のたこが乗ると，針は数も少ないためたこが逃げる率も大きく，又漁具がもたないので第6図の様に，この地区に合ったイサリを改良試作しました。即ちセメントの型を大きくし，竹の巾を太くし，又針を針金10番線で作り，数も5本と導入型よりも3本多くしました。初め研究会会員の中には，従来型のイサリに比較して非常に針の数が少ないので，たこが逃げてしまうのではないかと言う声も出ましたが，実施に操業して見ると良好でありました。

(ロ) 玉から樽えの改良

手釣りでイサリを曳いていたのから，ガラス玉に変え一度にイサリを5個も流せる様になりましたが，道糸が玉にまけず，又船の上でもかさばり，破損する玉も出て来ました。今年は大洗町より導入したハイゼックス樽を，試験的に使用しましたが，道糸が樽にまけ，しかもかさばらず，場所も取らず，操業しやすいものですが，浮力が9寸玉位しかないのと，価格が1個350円と高く，完全に普及はしていませんが，来年度は完全に普及すると思っています。

今年は石油缶も樽流しの代用に流しました。

(ハ) 漁法の改良

漁場図に示すとおり岩盤か，玉石，根端しが好漁場で水深30m～60mの所です。1本釣の時は漁場に到着すると，イサリに餌のサンマ，又はカレイを付け風と潮流れに船を立て，イサリを投入しシヤクツて，たこがかゝるとこれを引き揚げたこを取外し，又投げ込み1日中このくりかえしを行っていました。ガラス玉流しを行う様になると，岩盤の上は流せず，玉石根のまわりが良く漁場に到着すると，イサリに餌を付けて投入する前に潮流れ方向をよく見て，潮上より玉を，15m間隔で投入して行き，根のふちの所迄流すのです。道糸の長さの調節はその日の潮流れの早さにより，早い時は水深より5ヒロ位長くし，遅い時は底に付く位いにして流します。普通1人で5～7個流していますが，一寸潮の早い日などは，玉を見失う事がありますし，潮流が5マイル位になり

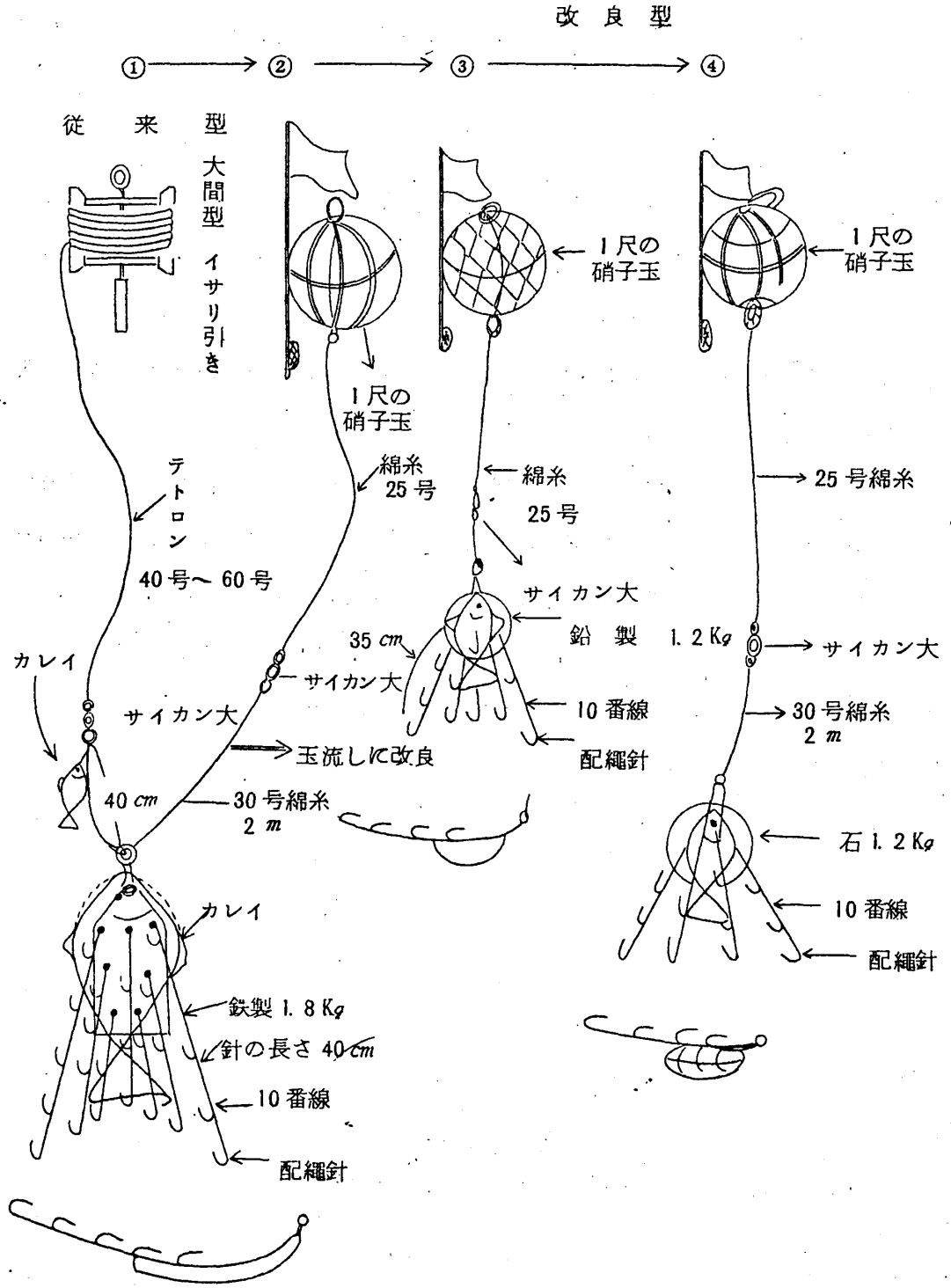
ますと潜ってしまい破損する事もあります。流している時は玉の状態をよく見ていて，たこがかゝるとその玉がストップするか，他の玉より遅くなるので，これを引き揚げたこを取り，又餌を調べて再度投入する。玉が根の所迄流れたら玉を揚げ，漁場の潮上より又流しています。ハイセックス樽も玉と同じ方法で操業していますが，イサリがセメント製なので良く流れ，たこも乗りしかも岩盤も流せ結果良好でした。

4. 研 究 の 成 果

私達の地区では前に述べた通り，37 年よりマス漁の片手間に春だこを取る様になりましたが，38 年より私くし初め，研究会員が協力して漁獲能率向上を図るため，1 本釣より玉流し，樽流しと漁具漁法が改良され，漁場も広く利用出来る様になりました。この結果表 1 図の通り 38 年の春だこは，研究会員 5 人の例を取っても 1. 0206 円のものが，今年は 885. 3 Kg 68. 424 円と約 6 倍の水揚高を見る事が出来ました。

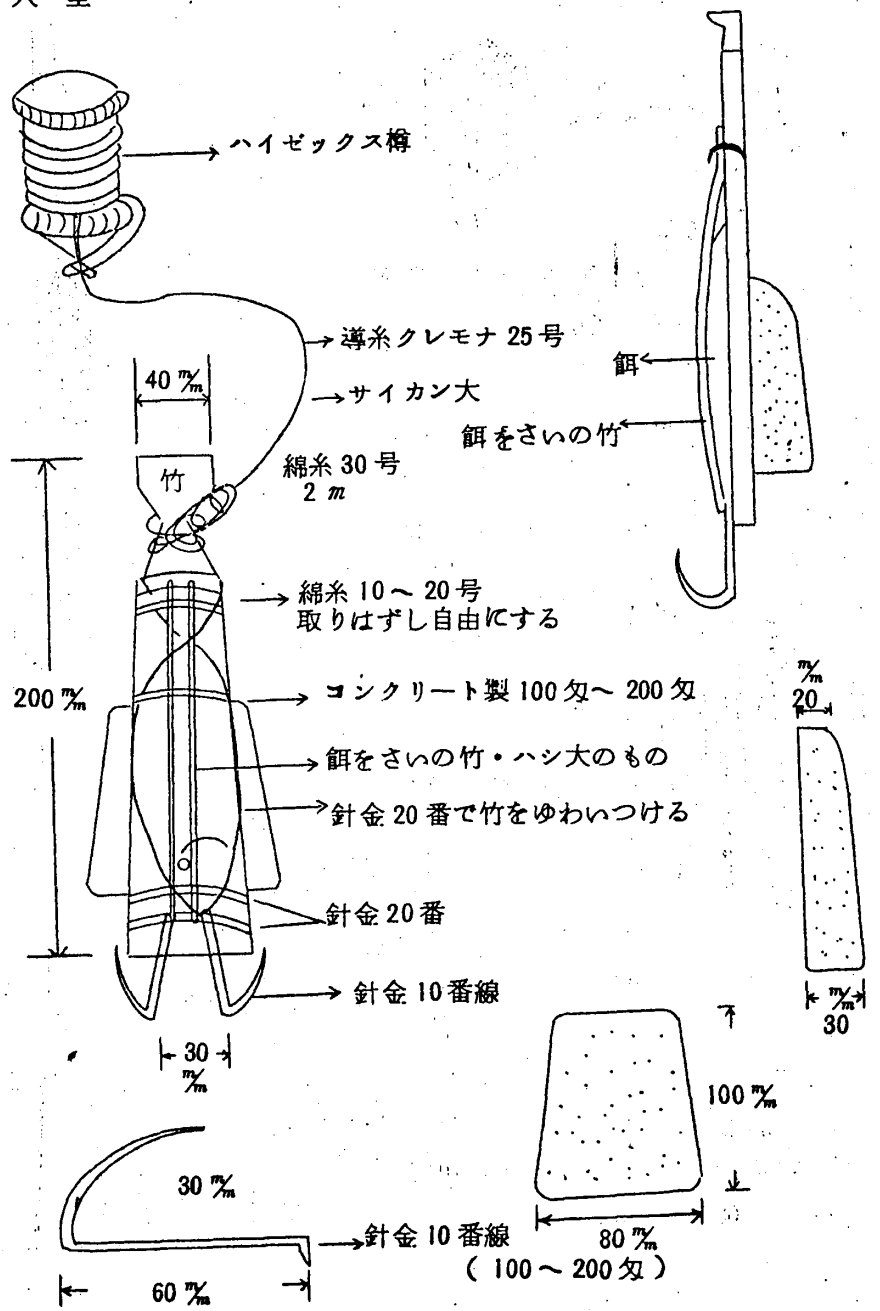
水揚高の増加と共に漁具の経費も従来のイサリと導入改良型とでは，表 2 図に示した様に 431 円と約$\frac{1}{3}$安く出来る様になり，又漁具の損失も少なくなりました。この様に導入した漁法を自分達の漁村に適する様改良研究する事により，漁場開拓，たこ水揚増加出来ました。春の価格の良いマス漁が不漁の場合には，このたこ樽流しとの組合せにより無駄なく操業出来る様になりました。以上今年迄私達が研究して来た改良過程を報告させていただきましたが，今後さらに研究し改良をかさねて行くつもりであります。

漁　具　図


改良型
①
②
③
④
従来型
大間型
イサリ引き
1尺の硝子玉
1尺の硝子玉
1尺の硝子玉
テトロン
40号～60号
綿糸
25号
綿糸
25号
25号綿糸
サイカン大
鉛製 1.2Kg
35 cm
サイカン大
サイカン大
10番線
配縄針
30号綿糸
2 m
カレイ
サイカン大
玉流しに改良
40 cm
30号綿糸
2 m
石 1.2Kg
10番線
配縄針
カレイ
鉄製 1.8Kg
針の長さ 40 cm
10番線
配縄針

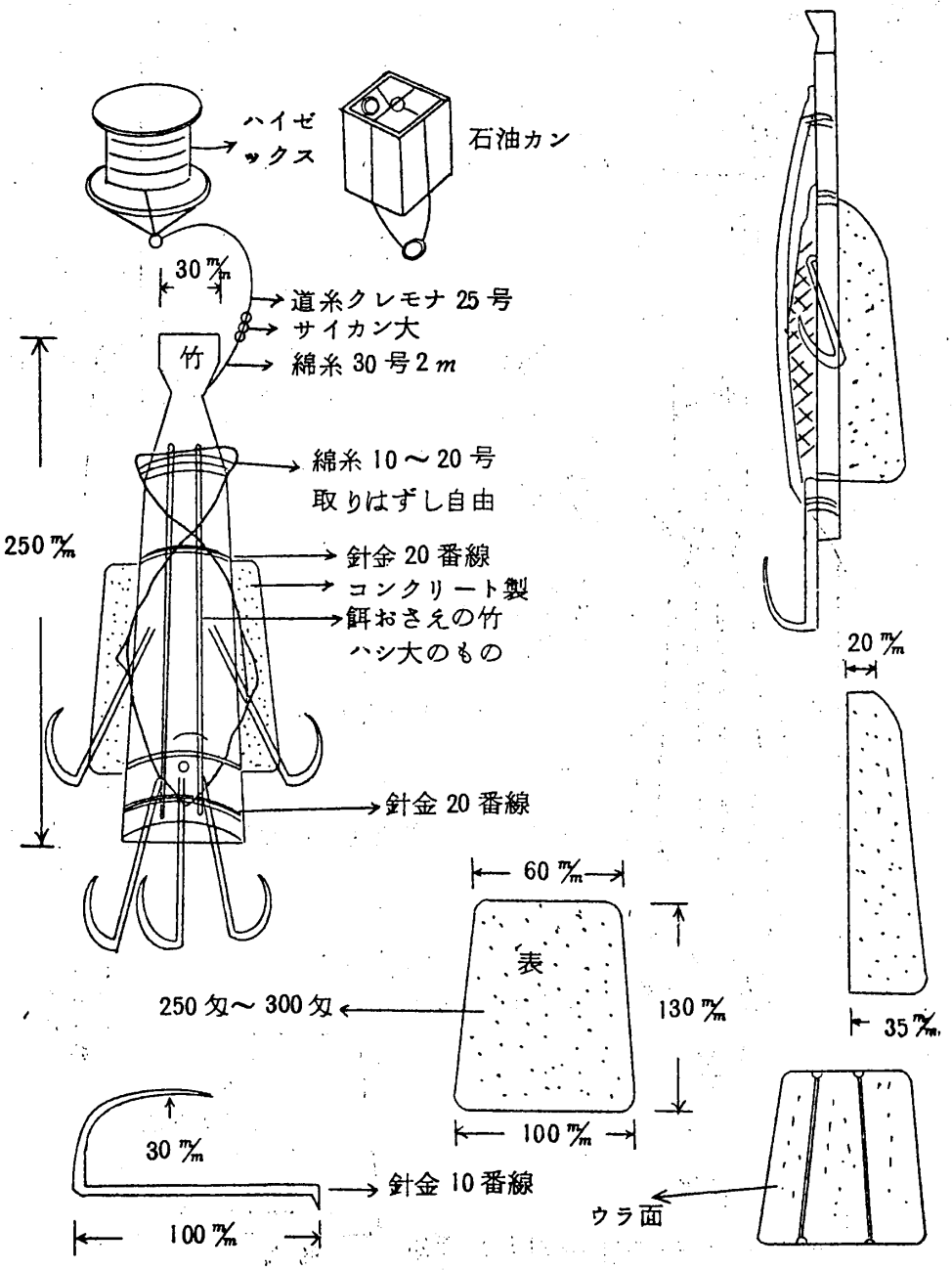
漁　　貝　　図

⑤ 導 入 型

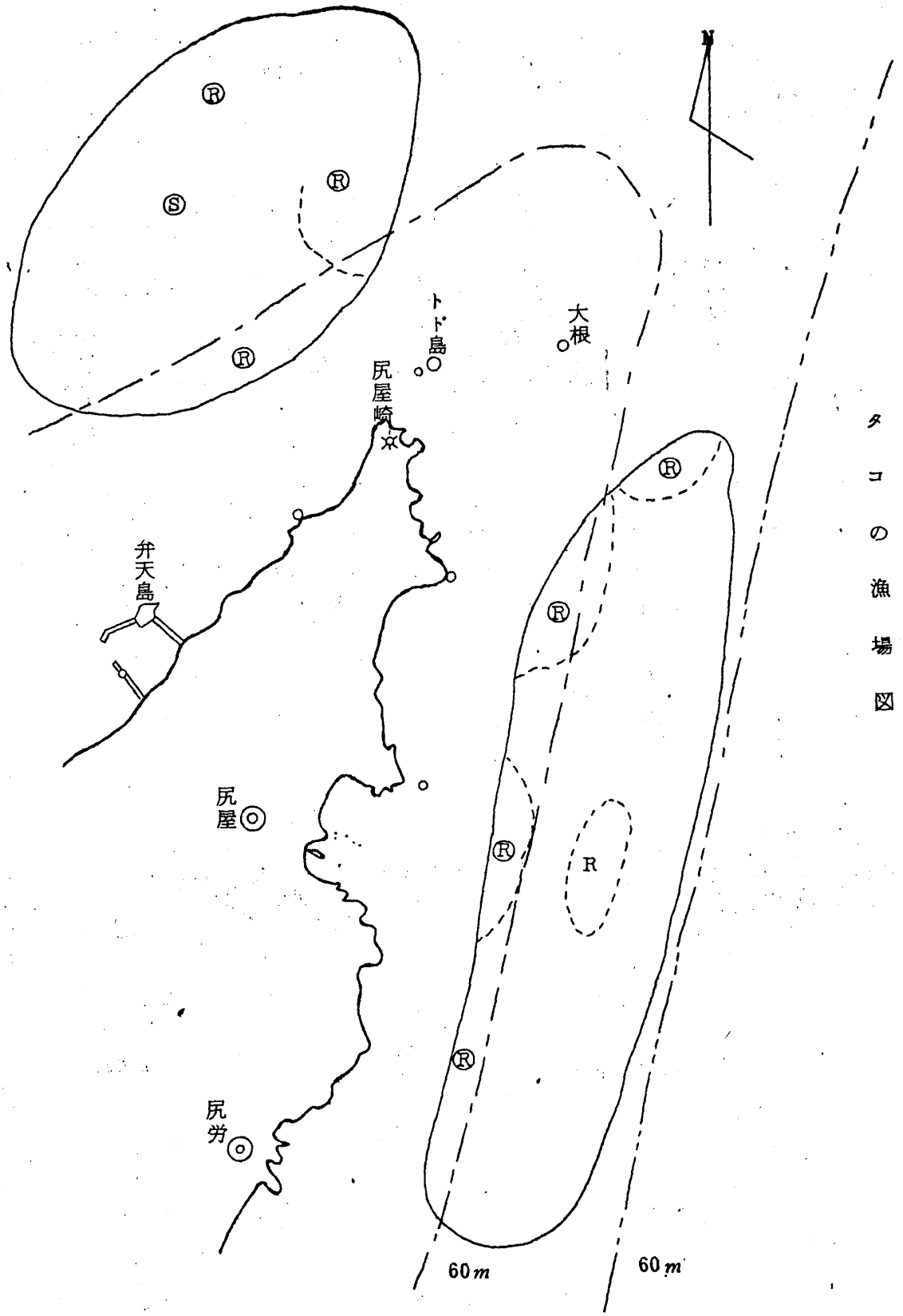

ハイゼックス樽
導糸クレモナ 25号
40 m/m
サイカン大
餌
餌をさいの竹
竹
綿糸 30号
2 m
綿糸 10～20号
取りはずし自由にする
200 m/m
コンクリート製 100匁～200匁
餌をさいの竹・ハシ大のもの
針金 20番で竹をゆわいつける
針金 20番
針金 10番線
30 m/m
m/m
20
m/m
30
100 m/m
80 m/m
(100～200匁)
30 m/m
針金 10番線
60 m/m

漁　具　図

導入改良型



ゆわい付けるみぞ



タコの漁場図

燥　　業　　図

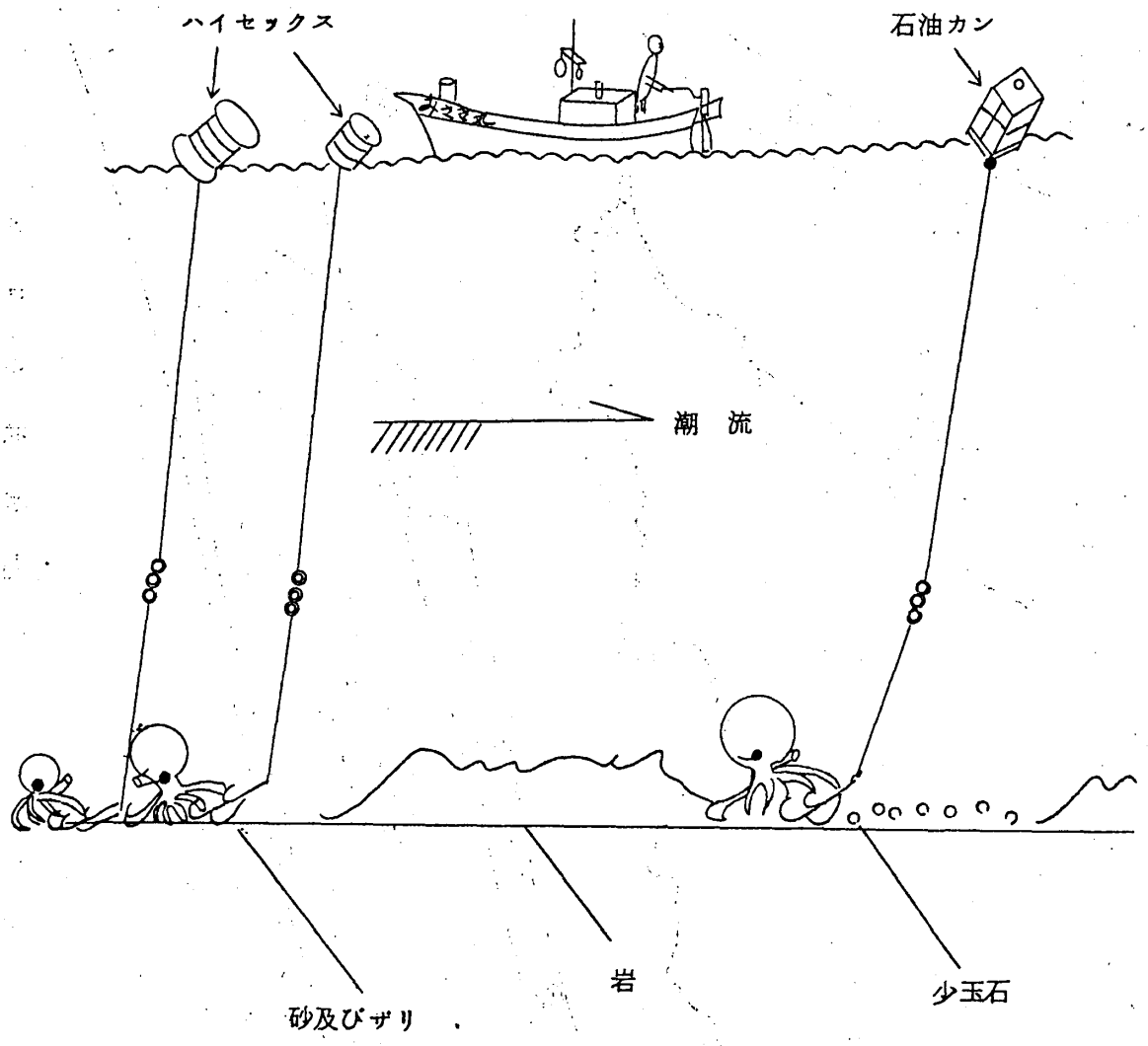


表1. 昭和38年度たこ水揚高 4月～5月

研究会員5隻の例

船名	屯数	馬力	水揚高	単価	金額
源栄丸	22	12	75Kg	100円	7,500
淳洋丸	2.22	12	174.9Kg	〃	17,490
広盛丸	202	6	41.5Kg	〃	4,150
みさき丸	1.6	6	200Kg	〃	20,000
宝洋丸	1.96	6	18.9Kg	〃	1,890
5隻平均	2	8.4	10206Kg	〃	10,206

昭和37年度たこ水揚高 4月～5月

船名	屯数	馬力	水揚高	単価	金額
源栄丸	22	12	893.7Kg	80円	71,496
淳洋丸	222	12	475.8Kg	〃	38,064
広盛丸	202	6	794.6Kg	〃	63,568
みさき丸	1.6	6	622.8Kg	〃	49,824
宝洋丸	1.96	6	1,489.3Kg	〃	119,168
5隻平均	2	8.4	855.3Kg	〃	68,424

表 2　漁具一式に要する資材

従　来　型

品　名	摘　要	数　量	単　価	金　額
イ　サ　リ	鉄　製	1	280円	280
道　糸	テトロン 60 号	100 m	800円	800
サ　ル　カ　ン	大　型	2	30円	60
針　金	10　番　線	2 m	5円	10
鈎	タ　コ　延　縄　鈎	22本	1.5円	22
合		計		1,172

導入改良型

品　名	摘　要	数　量	単　価	金　額
樽	ハ　イ　ゼ　ッ　ク　ス	1個	300円	300円
道　糸	クレモナ ハイゼックス } が汎より	40ヒロ	100円	100円
サ　ル　レ　ン	樽　型　0.3　号	1	5円	5円
綿　糸	30　号　バ　ス　用	1ヒロ	3円	3円
竹　長　25 cm 4 cm	イ　サ　リ　本　体 餌　締　付　用	1本	10円	10円
針	10 番線針金 15 cm	5	1円	5円
針　金	20　番　綿	1 m	2円	2円
沈　子	300 匁 コ　ン　ク　リ　ー　ト　製	1個	6円	6円
合		計		431円

私たちのグループ活動

白糖漁協婦人部　伊勢田（いせだ）　か　な

私たちの婦人部は，今から三年前の36年6月，漁業協同組合の御指導によって，漁家の主婦194名をもって結成いたしました。

その目的は「漁業経営を合理化し，漁業生産力を発展させるため，婦人本然の姿において地位の向上を図ると共に，漁家経済の確立を図り，そして，漁業協同組合の発展を図る。」ことにあるわけであります。

創立当時は，村の人達から女の手で何が出来るものか，今に解散するだろうという声がさかんでありました。

しかし，私たちは，目的をもって設立したからには，どんな苦難があっても歯をくいしばって目的を達成しなければならないという固い信念から村の人達の声など気にかけず部員一同一致団結して今日まで努力してまいりました。その効があって，村の人達の理解も深まり，部員数も年々上昇して，当初，194名の部員も現在は284名に増加いたし，名実共，「漁村の振興は，私たち婦人の手で」というところまでに発展いたしました。

今回，こうして発表できるということは，まったく夢のようであり，涙が出るほどうれしく思います。これも，部員一同のたゆまざる努力があったればこそと信じてやまないのです。

私たちは，当初，まず手近かなところから一歩一歩築いて行くことにして，とりあげましたことは，

1. 月掛貯金の実施
2. 生活用品の共同購入

の2つでありました。

それでは，これからその内容について御説明してまいりたいと思います。

1. 月掛貯金の実施

私たちが汗水流して働いて得た収入を家族の本当の幸せのために，上手に使い，家庭経済の定定を図ると共に，少しでも多く漁協へ貯金をして自分達の漁業協同組合を強いものにし，漁業振興を図らなければならないという気持から回覧箱による月掛貯金を創立以来今日まで実施しております。

これは，当初，日掛貯金ということも考えたのですが，忙しい主婦の集りとしての私たちは，まず

無理な計画をしないということで地味ではありますが，長続きのする月掛貯金を実施したわけであります。

毎月10日を「貯金日」と定め，班長が回覧箱をもって集金し，それを漁協へ預けるという仕組みにし，みんなの協力で励行につとめております。

その成果は，第1図のとおりでございます。

私たちは，貯金をする意欲は充分あるのですが，家計をあずかっている関係からどうしても払い下げが多くなる傾向がありますが，それでも，この月掛貯金を実施してからは，貯蓄心も高まり，生活のために非常にプラスになっております。

このことは，グループ活動のお蔭だと心からよろこんでおります。

それに，漁協へ貯金するということで，私たちは，漁業協同組合を身近かに感じ，だんだん理解も深まってまいりました。

今までは，漁協は夫などが関係するもので，私たちには関係がないという観念がありましたが，今は「私たちの漁協」という気持になり，漁村の振興は「漁協づくり」が大切なので，私たち主婦も一役買わなければならないという考えになりました。

子供たちも「子供貯金」として漁協へ預けておりますので，私たちは，家族ぐるみで，「漁協の強化」につとめているわけであります。

今後は，収入を全部漁協へ貯金し，最近，方々でやっております「月取貯金」の制度へもっていきたいとみんなで話しあっております。

2　生活用品の共同購入

生活用品の共同購入の動機は，収入の増加を図ることは絶対必要ですが，私たち主婦の立場は，台所における経費を節減して，漁家生活の安定を求めるべきだとの考えから始めたわけであります。

当初は，正月，盆，祭曲，節句などの村の年中行事のあるときにだけ共同購入をしてまいったのですが，真に，経費の節減を考えるならば，このままの姿で，はたして良いのだろうかという考えから38年10月に，今までの共同購入のあり方を検討してみました。

まず，部員がどういうことをのぞんでいるかを知る必要があるので，第1表のようなアンケートを配布しました。

配付数は，250枚ですが，回収集は，36パーセントの91枚でした。

その結果は，第2表のとおりでございます。

この結果を，参考にしながら役員会を開いていろいろと検討いたした結果，毎月取扱いすることに決定し，今日まで続けております。

取扱方法は，予約注文制をとり，班長が，毎月，自分の班の分をとりまとめ，それを集計して，漁協を通じて注文し，品物が届いたら役員が立合って分配し，各班長に配付するという仕組みであります。

その成果は，第二図のとおりでございます。

それに，漁協では，私たちの活動に全面的に協力してくださいまして，運営資金として30万円まで融通してくださいますので，運営も円滑におこなわれております。

私たちの夢は，私たちの手で売店を持つことです。この夢が，はかない夢として終らないようみんなで協力していく覚悟でございます。

このほか，38年度は，岩ノリ養殖試験を試みてみました。太平洋の荒波をひかえての私たちの土地では，はたして施設がもてるものかどうか，ノリが付着するものかどうかという不安な気持ちをもちながらコンクリート面造成をほんの少しですが実施してみたのです。初めてのことと，波のために作業も思うようにはいきませんでしたが，一応，試験することはできました。

その結果，実施後一カ月程度の間で，約20～25センチという見事な成長振りをみとめました。これには，部員をはじめとして部落民もおどろきました。

これで，私たちは，荒波の多い太平洋でも，ノリの養殖ができるという貴重な資料を得たわけであります。

これに自信をもった私たちは，39年度も実施することにしたしました。

また，水産加工については，技術の問題，施設の問題，流通の問題などがあって容易にとりあげられないでおりましたが，39年度は「塩漬ワカメ」を試験いたしました。

この結果がどう出るかが楽しみです。

加工については，今後，大きくとりあげなくてはならないことですので，加工研究所への派遣で技術の習得につとめておりますが，私たちの手でもぜひ水産加工をとりあげていくつもりでございます。

なお，私たちのグループ活動の円滑化と理解を深めるために，漁協で毎月発行しております「漁協通信」のなかに婦人部ページをもうけていただき，活動状況の報告や情報の提供につとめております。

このことは，非常によろこばれておりますので，今後も続けていくつもりでございます。

そのほか，家計簿記帳の問題などいろいろとりあげ実施して，少なからず漁家経済の一助となって

おります。

私たちは，私たち漁家の経済生活を豊かなものにするため，個々にはなし得なかった問題を，婦人部という組織の力により，達成しなければという願いをこめて活動しているわけですが，これで充分だということではなくまだまだやらなければならないことが山積しております。

私たち主婦が，働く主婦であると同時に考える主婦として，力の集合により，考えついたことを協力して実行に移していくところにグループ活動の意義があり，これを育てあげることが，私たち主婦の任務であり，又，願いでもあるのでございます。

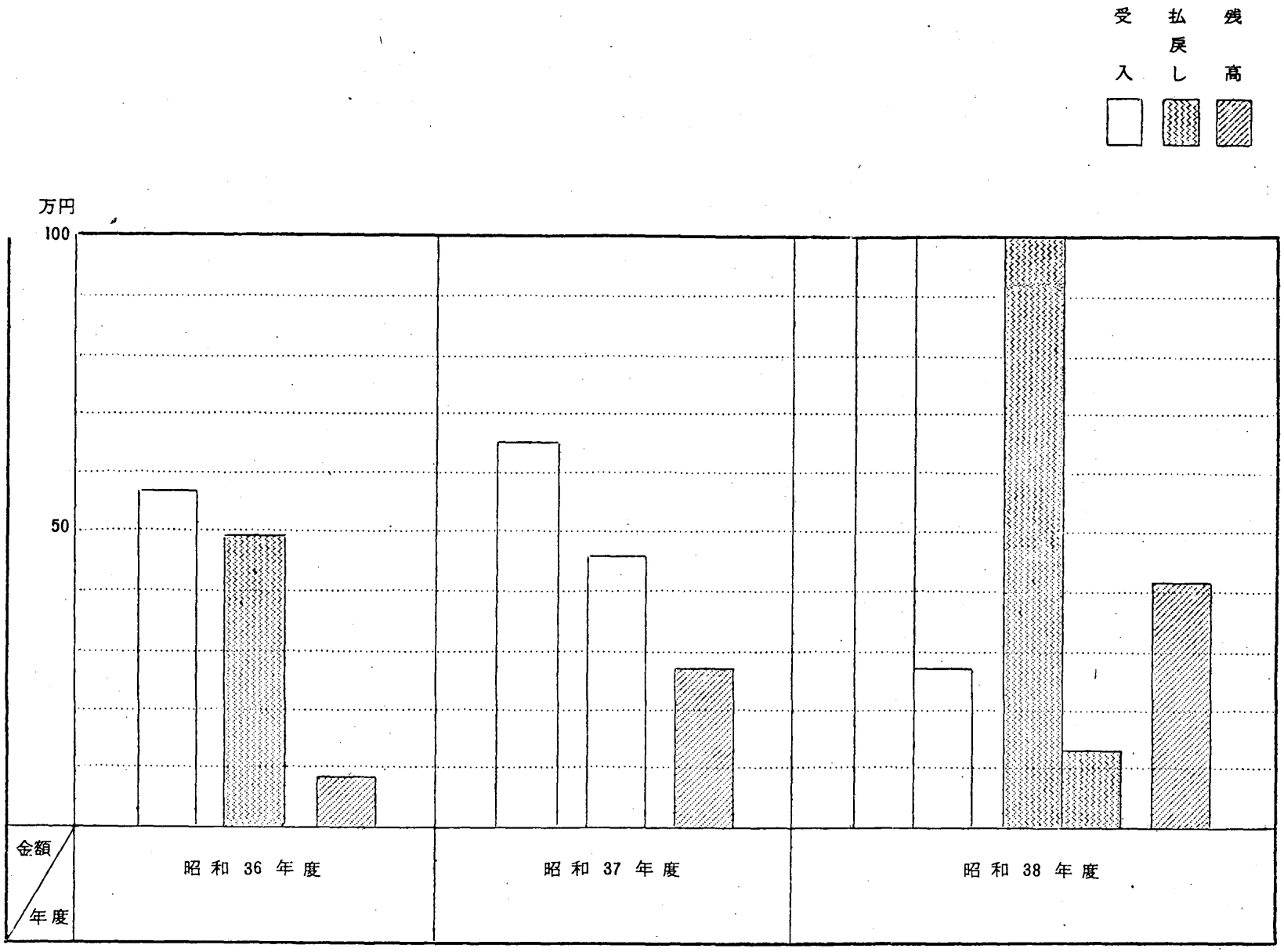
今後とも，グループ活動を通じて，生活の向上のために努力する覚悟でございます。

私たちのグループ活動が，今日までにいたりましたことは，漁協をはじめとして普及員の山本さんの御指導があったればこそと信じてやまないのです。

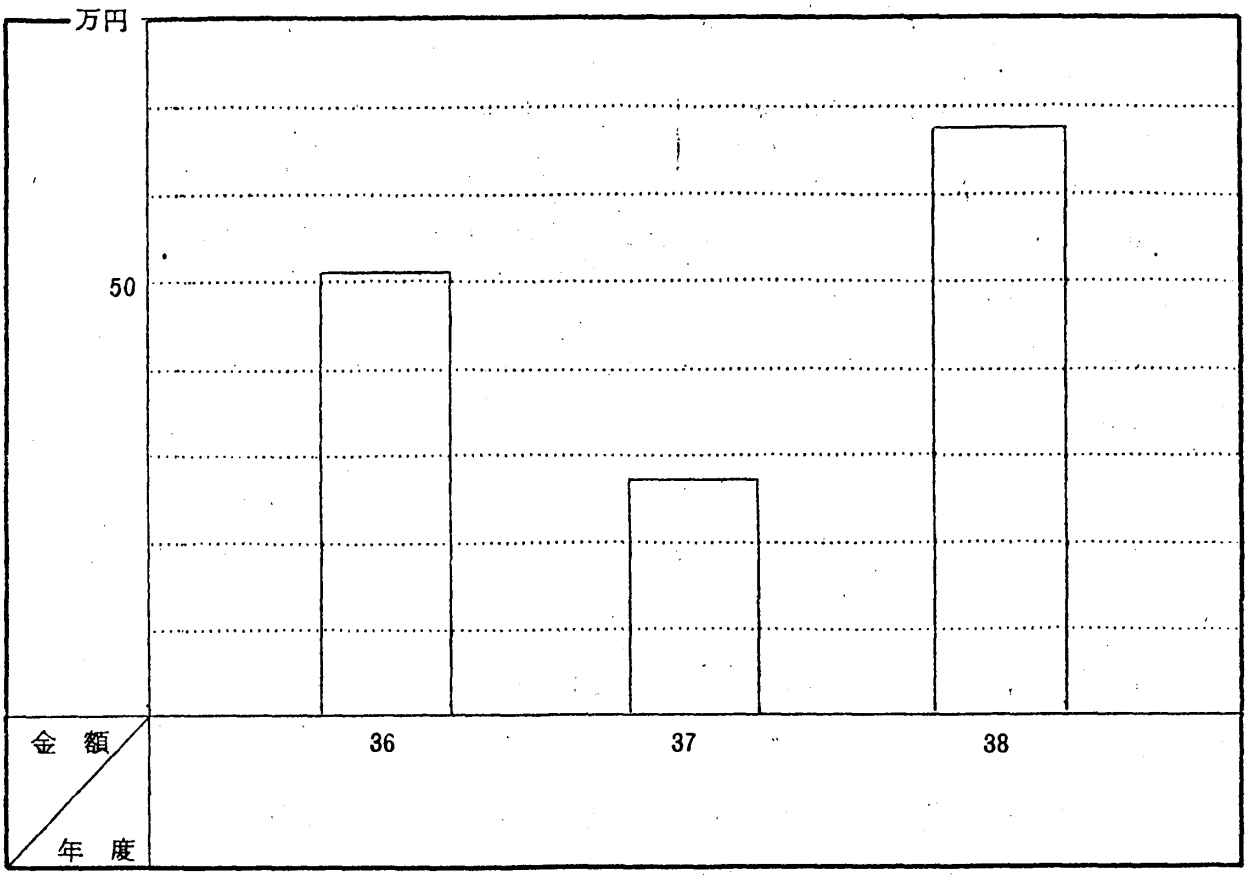
以上をもちまして，私の未熟な発表を終りたいと思います。

今後とも，みな様の御指導をお願いいたします。

第 1 図　年度別貯金実績表



第 2 図　生活用品共同購入年度別取扱高表



第1表

婦人部の購買事業についてのアンケート

1. 取扱ってもらいたい購買品

○で囲んでください。（○で囲む分には制限ありません。）

日　用　品

石けん.　ちり紙.　脱脂綿.　歯磨用品

食　料　品

みそ.　しょう油.　佃煮.　砂糖.　食用油.　バター.　チーズ.

味の素.　干タラ.　トロロコンブ.　ソーセージ.　ベーコン.

缶詰類.　タマゴ.　カレーライスの素.　けずり節.　煮干だし.

衣　類

モンペ.　ワタ.　カスリ.　作業衣.　毛糸.　地下足袋.

ユカタ.　学童服.

そ　の　他

茶.　薬（栄養剤など）.　学用品

2. 上記のほか，御希望品がありましたら書いてください。

3. 予約注文をとる方法，配付する方法，集金する方法は現在のままでよいかどうか。

もし，改善するとすれば，どうすればよいか。

4. 購買事業に対する御意見がありましたら書いてください。

第2表

婦人部の購買事業についてのアンケート結果表

1.

日　用　品

石けん（65）、　ちり紙（19）、　脱脂綿（16）、　歯磨用品（7）

食　料　品

砂糖（67）、　煮干だし（55）、　しょう油（40）、　味の素（40）、　食用油（35）

缶詰類（27）、　干タク（19）、　バター（17）、　カレーライスの素（15）

タマゴ（15）、　トロロコンブ（14）、　ソーセージ（11）、　けずり節（8）

チーズ（5）、　佃煮（4）、　ベーコン（4）

衣　　類

ワタ（37）、　作業衣（21）、　毛糸（19）、　モンペ（16）、　地下足袋（15）

ユカタ（5）

そ　の　他

茶（11）、　学用品（5）、　薬（4）

2　ゴム手袋（1）、　長靴（1）、　麦粉（2）、　うどん（2）

3　①　予約注文をとる回数を多くすること。（1カ月に1回は必要）

②　注文をとる場合，値段がわかればよろしい。

③　月に100円位ずつ集めて，それを何かほしいときに利用したらどうか。

4　①　今少し，品質と価格の調査は必要である。

②　砂糖，石けん等の日常必要なものは常時ないと不便である。

盆，正月などの年中行事のみの取扱いは意味はない。

③　いつでも買うことができるように，全部そろいておくか。

売店方法にしてもらいたい。

④　今後もアンケートを続けてもらいたい。

ほたてがい垂下式養殖について

奥内研究会　工　藤　豊　造

動　　機

私達の所属している奥内漁業協同組合の地先海面では，従来，定置漁業によりその漁獲高の 80 パーセントを占めていたのでありますが，陸奥湾全般の傾向として，年を追っていわし類の　遊が減少し，私達の定置漁業も経営が行き詰まりとなり，経営者を始めこれに従事する者が他産業に転換し，あるいは出稼ぎする者が続出している現状であります。

このような状態が続きますと，漁業により生計を維持することは，ますます困難となってきますので，この際，一網千両の夢を捨て計画生産による堅実な漁業収入を図ることが必要となってきたのであります。

私達の研究会でもこれに重点をおき，検討を重ねた結果，獲る漁業から育てる漁業に切り替えすべきであるとの結論を得たので，昭和 36 年度以降，水産試験場および市水産課の指導を受け，わかめ，のりの養殖を実施したのでありますが，種々の障害から企業として成り立つまでの成績をあげることができず，今日に至っているのであります。

また，昨年，地元組合において，ほたてがいの採苗事業を実施し，12 枚の稚貝をパールネットにより中間育成して放苗しましたが，私達の漁場は，水深 15 メートル以深の底質は，泥場で，ほたてがいの生息地として適当でなく，水深 15 メートル以浅は，砂地ではありますが，この区域は極めて狭まく，しかも強い偏東風による波浪，やすごの食害等，余り期待のかけられない状態であります。

そこで私達研究会は，この貴重なほたてがいの中間育成の努力をいかにして漁業収入に結びつけるか真剣にとり組んだ結果，1 会員のヒントから前述の悪環境を排除する方策として，岩手県大船渡市のあかざらがい養殖の方法，つまり垂下式を試みることになったのであります。

経過および結果

昨年採苗されたものをパールネットにより中間育成した殻長 4 センチから 6 センチメートルまでの稚

貝750枚を地元組合の厚意で分譲していただきましたので，本年2月4日より垂下作業を実施したのであります。

垂下作業の方法は，第1図のように，まず手廻しドリルで殻耳(みみ)に穴をあけ，次に第2図のように5箇1組としてナイロンテングス40号をその穴に通し，径4ミリメートルのビニール電線を20センチメートル間隔に6センチ程ねじり，その先に輪を作って，前述の1組5枚を通したテングサを30組さげて一連とし，その長さ6.5メートルとしました。

これを第3図のように径12ミリメートルのハイゼックスロープの棚に2メートル間隔に五連垂下し，奥内小学校沖300メートル，水深8メートルの地点に敷設したのであります。

以後の成育状況は，3月25日の測定では，殻長7.7センチメートル，重量50グラム，6月1日では，殻長8センチメートル，重量60グラム，7月13日では，殻長8.2センチメートル，重量85グラムありました。

測定したものは，総数の3分の2以上を占める大きさが中程度の貝5箇の平均であります。

8月上旬にも測定をしましたが，7月13日測定の結果と殆んど変化なく，成長は認められませんでした。

これまでは，斃死したものは，ありませんでしたが，8月下旬において突然，総数の3分の1が斃死し，非常なショックを受けました。

斃死率は，上層に近い程高いことから，例年，7月下旬にかけての高温の暖流が接岸し，上層において適水温を欠くに至ったものか，あるいは，この時期に10数日間続いた強い偏東風による波浪のための振動が障害となったのではないかと考えております。

また，6月頃，貝の表面に附着するそう類，いがい等のため，プラクトンの採餌が阻害されると考えられますので，6月下旬と8月下旬の2回にわたりそう類等の除去作業を行ないました。

たまたま，6月末，地元組合で放苗した稚貝6箇がしやこ刺網にかかりましたので，同時期の垂下養殖をしたものと比較してみましたところ，放苗したものは，大きいもので，殻長8センチメートル，重量60グラムありましたが，垂下養殖したものは，5箇の平均殻長8.1センチメートル，重量80グラムあり，垂下養殖したものは，重量において，特に優れていることがわかりました。

これまでの経過からみて，結論を述べるには余りにも日が浅く，単なる思いつきで極めて幼稚なものでありますが，今後の見通しについて，その利点を申し述べてみたいと思います。

1. 底質の条件およびやすでの害敵には，影響がまったくないこと。
2. 海面を立体的に使用するので，狭い漁場を高度に利用できること。
3. 管理作業が容易で，1名で約5万枚の養殖が可能であり，他の業務の余暇でもできること。
4. 需要に応じ，何時でも出荷できるので，市場価格を維持できること。

以上のような利点が考えられます。

ほたてがいは，全国的にも生産地が限定され，生産が需要に追いつかない現状にあり，高値でしかも，販路が広汎であることから，生産過剰の事態も考えられないので，最も有望な養殖業であると思われます。

次に今後の問題点をとりあげてみますと，ほたてがいの斃死の原因と思われる7月下旬から8月下旬にかけての暖流の接岸および偏東風による波浪の対策でありますが，これには，水深20メートル以深に敷設し，養殖貝が水深10メートル以深になるようにすることによって，その障害を排除できるのではないかと思います。

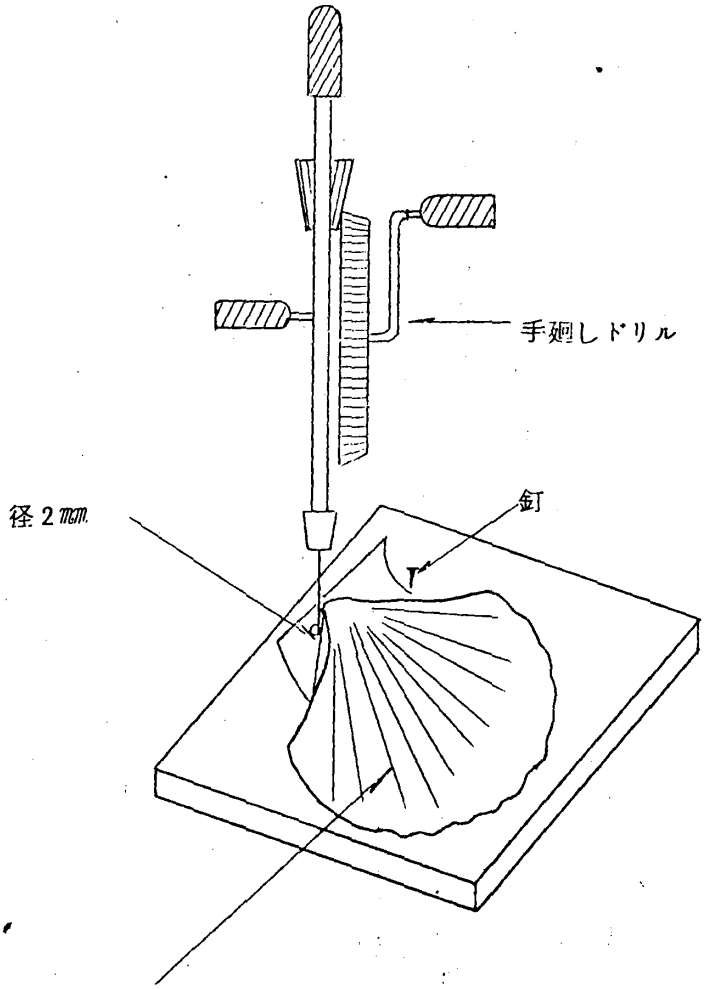
また，そう類，いがい等の附着物もその習性から水深10メートル以上では，生息が充分でないから附着物の除去作業も，相当に環和されるのではないかと思います。

しかし，このような施設をするには，潮流，偏東風による波浪に耐え得るためもあり，設備資材も多く要し，漁場も遠隔になる欠点もありますが，設備資材の成価償却を考えてみれば，1年の販売予想額の10パーセント程度にとどめることができると考えております。

そのほか，今後，テングスの摩擦により殻耳（みみ）の穴が拡大し，ついには，殻耳が破損，養殖貝が落下することも考えられますが，この対策として，殻長が6.5センチメートル程度に成長する6月末までパールネットで育生すれば，殻耳も成長し，強度もありますので，破損率も著しく少なくなるものと思います。

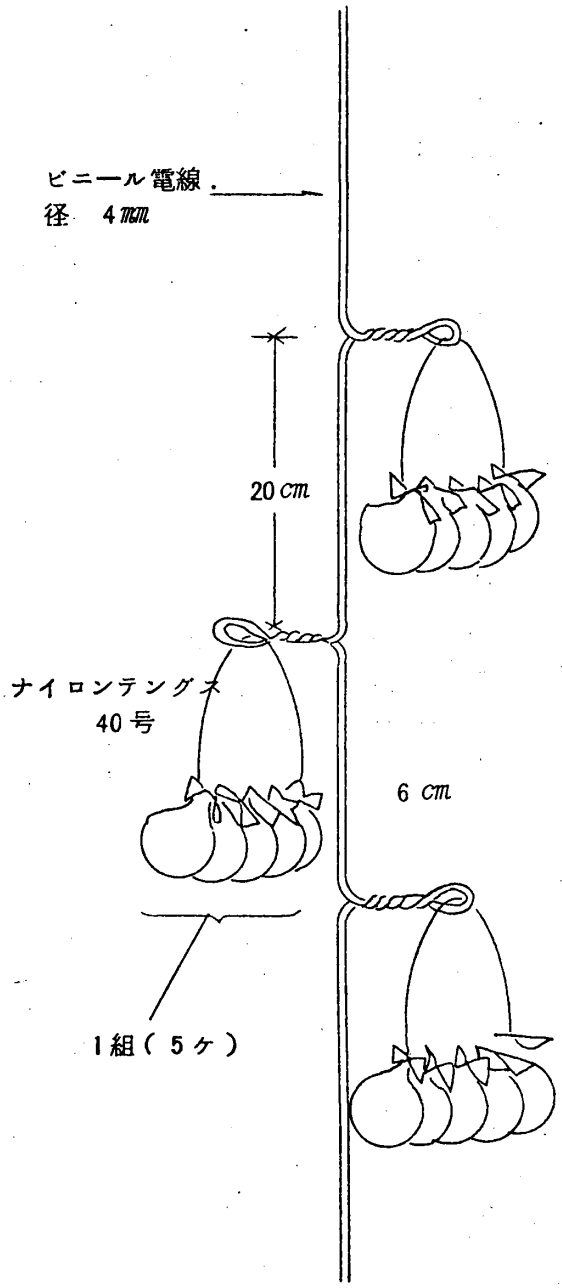
現在，養殖中のものは，2月始めに垂下したものでありますので，最悪の場合，殻耳の穴のあけ替えおよびテングスのとり替えをしなければならないことになれば，費用と手数を要する等のほか，数多くの改良を要することを痛感しておりますので，各位のご指導とご協力を得て企業として成りたつまで研究を重ねていきたいと思っています。

第　1　図

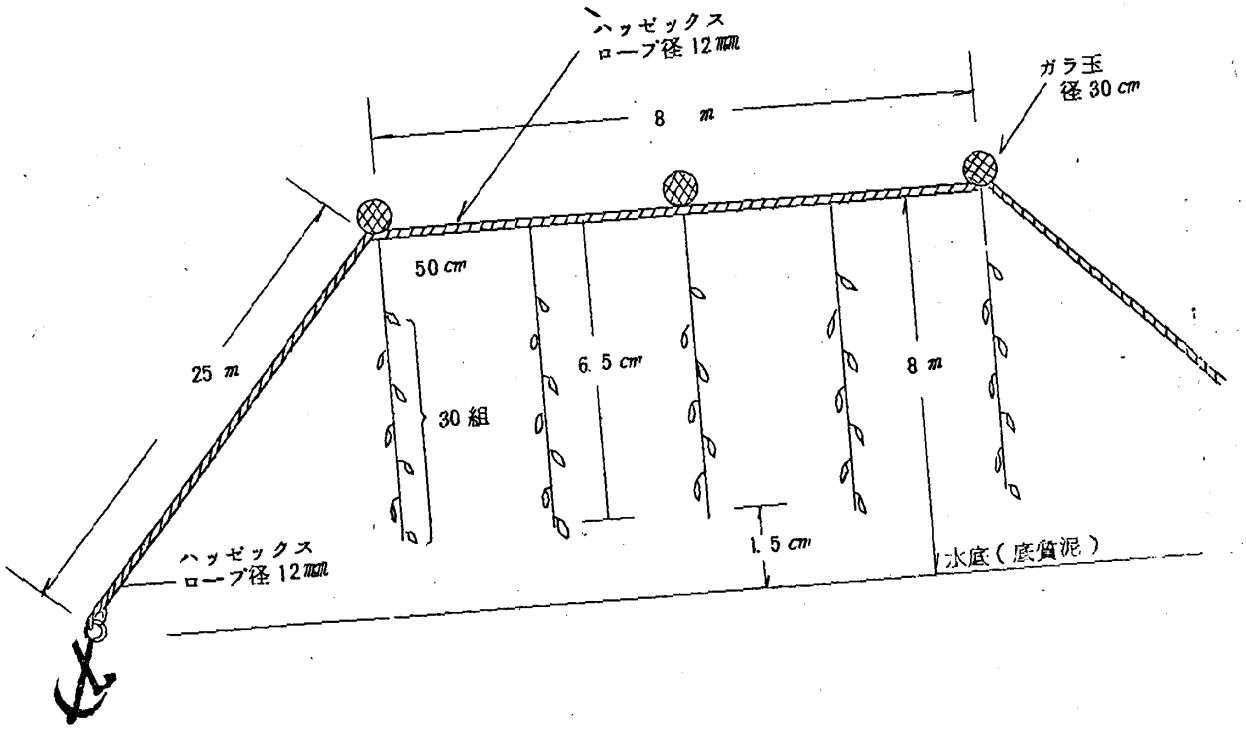


中間育成　6 ケ月
殻　　長　5　cm
重　　量　20　g

第 2 図



第　3　図


ハッゼックス
ロープ径 12 mm
8 m
ガラ玉
径 30 cm
50 cm
25 m
30 組
6.5 cm
8 m
1.5 cm
水底（底質泥）
ハッゼックス
ロープ径 12 mm

研究活動を省りみて

発表者　佐井村一本釣研究会　島　野　芳　之

本日この大会において，ささやかな私共の体験発表のできますことをうれしく思います。発表は不馴れであり，内容等においてもお聞き苦しい点が多々あると存じますが，何分のご諒承をお願い致します。

津軽海峡の潮風にのって今日も勇ましいエンジンの音が聞えてきます。一見平和なこの漁村の情景も数年前までは，磯枯れの白い岩礁と旧来からの漁法によって生活を営んできた零細漁家の多い村でありました。

私共の村は本州の北端大間崎より南方約 1,004 キロ余りの地点，長い海岸線にそった半農漁の村であります。専業漁家，241 戸，動力漁船数 184 隻，無動力船 440 隻，組合員は，正組員，準組合員合せて 302 名であって，年間操業期間 9 ケ月をこえております。

さて私共研究部が，漁民の生活を少しでも安定させ，明日の生産に希望を見い出そうと発足したのは昭和 35 年 11 月でありました。今，その頃の生産及び操業の状況をふりかえって見ますと，根付漁業と定置網漁業が主体となっており，昭和 23 年よりその不振が目立ち，昭和 34 年度においてついにその生産が皆無という最悪の事態を経過して細々とその生活を保つという状態でありました。したがって漁民の生産意欲が減退し，父祖伝業の漁場をすてて，北海道，遠くは関東地方へと出稼ぎが急増していったのでした。

私共がこの苦境を打開するために 22 名の研究部員が漁業改良普及員を中心としてその対策に乗り出したのです。結論として旧来の根付漁業と定置網漁を副次的なものと考え動力船による沖合漁業への開拓という当地では始めての試みを実施することに致しました。私共は漁民の経済更生には，低資本で永続性があり，しかも生産の拡大を計りたいと思い，手始めた魚類の廻遊状況を調査することに決定いたしました。たまたま，私共の小グループより，ひろく村全体の問題としてはとの意見もありましたのでこの旨を村当局に実情を申しあげたところ，こころよく諒承されまして魚群探知機の購入という幸先のよいスタートをきることができました。

この魚群探知機による調査で判明したのですが，ブリその他，多数の魚群の廻遊状況が記録され，その結果を更に分折し数 10 回にわたり会合を重ねました。漁業改良普及員の指導とあいまって，ブリ一本釣りを研究課題とし，先進地からの資料をもとにその漁法と漁具の研究に着手することになりました。

やがて試験操業が実施され，その結果，予想外の好成績をおさめることができたのであります。

私達は早速この調査結果及び生産資料をもって村当局に参りましたところ，さらに1台24万円の魚群探知機を購入して下さったのです。この探知機で更に沖合の調査研究を進めた結果佐井村沖合の魚群移動性と礁について確認するに至りました。

もともと，この1本釣り漁法は，島根県で発案され，北海道の漁民によって受講されてきたものを私共が更に改良工夫を加え，特に夜間操業によって，当地としては画期的な生産を挙げることができたのです。

今ここにブリを主体とした1本釣り漁法による生産高の概略を申述べて見ますと，昭和34年190万キロのものが，38年度において350万キロを数え，本年度はこれを若干上廻るものと推定されています。

佐井村全体の総水揚1億1千6百万円，その内，海藻等による収益はその3割という実績を見るとき，私共の小さなグループの果した役割に誇りさえ感じられてなりません。もとよりこの良結果は，

1. 経費が安くすむこと。
2. 漁場を広範囲に利用できること。
3. 昼夜の操業が可能であること。

などの条件を見のがす事はできません。今，ここに私の生産額を参考までに申述べて見ますと，昭和35年度は年間約35万円のものが，昭和38年度には約68万円と高率を示しております。（一本釣その他のものも含む）私共は今後の目標として1人100万円を夢みて努力を続けたいと思っております。一本釣りについて，漁具，潮流，時間など具体的な説明を申しのべてもよいのですが，前年度これについての発表がなされておりますので省略致します。お質問があればお答え致します。

以上で一本釣りの経過について申し述べましたが，その他改良を要するものが山積しておりますので今後共生産の向上に努力したいと念じております。

それでは，今後の課題とでも申しましょうか，2，3についてふれさせて戴きます。

1. 他町村との技術交流

私共はすでに40数回にわたり相互に意見を交換し，特に漁具の改良では大きな成果を挙げてまい

りました。漁民特有の問題解決意識の低さと，非科学的な物の考え方を私達研究会員の手によって一掃し，来るべき近代化への門戸を開くよう努力したいと思います。

2. 先進地の視察

もっともっと立ち遅くれたといわれた沿岸漁業も画期的な進歩が見られる現在，経済上許される範囲で，進んで漁法を体得するよう努力したいと思います。私共はエンジンの講習，漁具等の現地研修を実行してきましたが，今後，当県におかれても，この研修行事開催について一層のご配意をお願い致します。

3. 漁礁の探知

今までは限られた場所，いわゆる根は古老の話によって推定されているのが現状と思われます。私共は科学的に，より積極的にこの探素を実施し，漁族資源の確保と漁獲の増加を計るよう努力したいと思います。私共はすでに魚探によってこれら場所の確認を急ぎ数ケ所探知しており，これによる生産を期待しております。（別紙グラフ参照）これについて県当局にお願い申し上げたい事は，人口的魚礁の一日も早く実現されることを期待いたします。

4. 岩礁爆破

ここ数年来私共の地域の海藻の繁殖の低下は言語に絶するものがあります。原因の科学的な調査とその対策が急務と思われます。最近コンブなど少量ながら繁殖のきざしがありますが過去の生産量から見れば到底問題とするにたりません。海も開拓するものと言われます。勿論予算上の立場もおありと思いますが，当面のご理解ある助力を期待するのは当地の漁民の声と存じますのでよろしくお願いいたします。

5. 流通経営面の対策

これは生産者の生活安定上，私共は特に関心を寄せている問題であります。魚類の保管施設と輸送上の欠陥によって，生産と価格のアンバランスを見のがす事はできません。県の代表機関と地元の漁協との協力をより一層密接にし，鮮魚を消費地直送という積極的な輸送対策を1日も早く実現していただきたいと思います。この解決によって，漁民の受ける利益はかなりの額に達することは明らかであります。

最後に漁民の生活安定のため，事業計画，資金運用面でのご助力をお願い申しあげ簡単乍ら私の発表を終ります。

私達の婦人部活動

鯵ケ沢町漁協婦人部　見崎アイ

鯵ケ沢町には現在500戸程の漁家がありますが，漁業につきものの漁，不漁によって収入が安定せず，またどの漁業も最近は漁獲が少なく，年々漁業は衰微していく一方であります。

こゝ数年間の鯵ケ沢町の漁業を振り返ってみましても．一時は賑わっていた春の大羽イワシ漁も昭和34年を境にしてさっぱり獲えなくなり．夏から秋にかけてのイカ釣も最近は賑わず．昭和36年から始まったメバル刺網は初めの1．2年は良かったものの．去年．今年と漁獲が急減し．冬季間のサメ漁も今では見るべき影がありません。

このような訳で．漁業に見切りをつけて出稼ぎに出て行く者が年々多くなり．一層漁業不振に拍車をかけています。

収入の少ない私達漁家の主婦が誰しも内職でもして少しでも収入を得ようと考えるのも当然です。しかし良い仕事はちょっとありません。

こんな時に——それは昭和37年6月でありますが．島根県から和船巾着網がやって来て．地元漁業の不振を尻目に．連日サバ．イワシ．アジの大量水揚があり．勢い．魚の選別のため多数の婦人が雇われることとなりました。

漁法が巾着網ですので．大小さまざまのサバ．イワシ類．アジが混獲され．したがってその選別作業には私達婦人の労働が是非必要だったのです。

この頃はまだ漁協婦人部が結成されていませんでしたので．初めのうちは作業員同志の連絡も薄くまた大漁の時の人手集めには．漁協の職員も大変苦労しました。このようにして何日か選別作業をしているうちに．作業員同志のグループが必要に迫られてでき上りお互いの便宜を図ることになりました。

やがて巾着網漁も終り．選別作業に出た人はそれぞれ1万数千円の臨時収入を得た訳ですが．このことがきっかけで．この年の12月に漁家の主婦一同集まって．各地の漁協婦人部にならい．私達も漁協婦人部をつくることとなり．会費1人年100円として．部員300名で発足することとなりました。

人数が多いので，入会の目的も人によっていろいろだったようです。魚の選別作業に出られるというので入った人，購買や貯金に魅力があって入った人，その他慰安旅行など皆と一緒にできるということで入った人等いろいろありますが，とにかく鰺ケ沢町漁協婦人部として部員相互の利益のために活動して行こうということになった次第です。

発足してからまだ2年に満たない私達のグループでありまして，活動報告するのもちょっと恥ずかしいのですが，皆様のご理解とご支援を得るために，この間に行なった主な活動をご紹介申上げたいと思います。

1. 貯　　金

婦人部活動の手始めとして，先ず実施したことは日掛貯金であります。これは信漁連の指導もありまして，全部員が参加することとなり，10名位づつの小グループ毎に，交代で当番を決め．毎日一軒づつ集金して廻り．昭和38年2月から始めて，現在では総額で180万円程たまり，漁協の出資金総額より多く，婦人部の大きな陰の力ともなっております。

2. 購　　買

貯金に続いて6月から，漁協の事務所の一室を借りて，婦人部の購買部を設け，日曜日毎に部員から2名出て，食料品や日用品を市価より1割程安く売っております。主な品物はジュース，砂糖，食用油，ゴム製品，布団綿等で，去年は約60万円，今年は今まで30万円程売っております。もともと購買は組合の事業でありますが，漁業用の燃油とか資材等の生産財は組合で扱うこととし，日用品等の消費財を婦人部で扱うこととし，部員だけでなく，一般の人からも好評を得ました。

3. 鮮 魚 選 別

次に鮮魚鮮別でありますが，これはいわば婦人部誕生のきっかけとなったものでありまして，前にもちょっと申上げました。選別の手数料は1箱につき4円50銭です。大漁の日には60人程出て晩の10時頃まで選別したこともありました。毎日の漁模様は船が遙か沖にいるうちに漁業用海岸局を通じて婦人部へ知らせてくれますので，漁具合にしたがって婦人部で作業人員を割り振りして，相互に連絡し合って作業に出るようにしております。その日の漁具合によっては，1時間そこそこで作業が終り，1人で100円前後にしかならないこともありますが，魚を貰って帰れますので魚代が助かりま

す。今年はどうした訳か巾着網の漁が思わしくなくこのため，手数料も去年の半分以下でした。

貯　金　額　一　覧

	昭和38年12月	昭和39年8月末
貯　金　額	1,500,000円	1,800,000円
人　員	300人	300人

購　売　品　供　給　額

	昭和38年 6月～12月	昭和39年 1月～8月
ジュース	58,600円	36,500円
砂糖	58,910	61,313
食用油	51,150	26,890
ゴム製品	59,160	35,700
布団綿類	114,520	18,200
旭味	28,438	23,388
その他	217,647	104,440
計	588,425	306,431

鮮　魚　選　別

	昭和38年	昭和39年
選別箱数	187,540箱	78,800箱
手数料	843,930円	354,600円
作業人員	70人	60人

製　函　作　業

	昭和38年	昭和39年
製函数	150,000函	102,000函
手数料	450,000円	357,000円
作業人員	20人	20人

4. 製 函 作 業

製函作業は去年は交代で20名づつ実施しましたが，或る程度の熟練を必要とするなどの都合もありまして，今年はほゞ同じ人20名出て実施することにいたしました。

以上私達の婦人部が取上げた主な仕事4つをご紹介いたしましたが，これらの仕事一つ一つにそれぞれいろいろな問題があります。鮮魚の選別にしましても，今年のように漁が少なくては，期待した程の手数料も得られません。来年の漁に期待をかけてはいますが，漁業のこととて予想が全くつかず，たゞ漁があってくれればいいがと願うだけで，果してどうなることか全く分らないのが，私達だけでなく，漁業者の悩みでもあります。購買事業にしても貯金業務にしても，まだまだ改善の余地があります。

私達の婦人部が曲りなりにも誕生して，せっかく2年近くにもなりますので，ここで部員一同創意と工夫を凝らして，いろいろな障碍と斗い，よりよい活動をしたいと思っております。

ノリ乾燥室の改良について

小湊ノリ養殖研究会　工　藤　喜代作

青森県は北国特有の降雪にみまわれるため天日乾燥が全く不可能で火力乾燥にたよるほかない。そこで先進地を視察したのち，独自の改良を加え仕上りもよく経費も安上りですむ乾燥室を完成した。その結果に付いて発表する。

私達の小湊漁協は県内では，有数のノリ養殖漁場を有し，古くから小規模な養殖が行なわれて来ましたが，昭和31年に火力乾燥機の導入によって，本格的に始められたのであります。如何に良質なノリでも，乾燥室の構造いかんによって，その製品の価格が大きく左右されることは，いまさら申し上げるまでもありません。

当管内の乾燥機は多種多様で御座いますが私が使用している乾燥機は重油を燃料に用いるバーナー式のものであります。

皆様も御承知の通り私達の青森県はノリ生産時期には，北国特有の降雪と猛吹雪に見舞われ天日乾燥が殆んど不可能なためどうしても火力乾燥に頼る外御座いません。そこで私達は，昭和33年に，岩手県及び宮城県の火力乾燥室の研修視察を行い両県の方々の御指導を賜り，先進地と同じ様式の乾燥室を造り，ノリ生産に励んで参りました。

先進地の方々のお話では，火入れから製品が出来上るまでの所要時間は乾燥室の大小，又ノリの枚数等に依って，多少異りますが，およそ3時間から3時間半位との事で御座いました。

しかし，私たちの所では連日の猛吹雪のため，気温が非常に低い関係から長い時間を要する事は勿論，労力，又，燃料費，電気料金等も多額の経費がかかり，その上出来上った製品が全然光択もなく，すべての面でマイナスになってしまうのであります。

そこで私達はもっと研究致して先進地と同様に，いやそれ以上に立派な製品を作るべきだと考え昭和37年乾燥室の改良致しました所其の成績が非常に良いと思いますので，此々に発表させていただきます。

では只今から図表によって御説明申し上げます。1図を御覧下さい。

此慮に示めす通りＡＢとありますが，Ａが従来の乾燥室でＢが改良致しました乾燥室であります。

先づＡから御説明申し上げますと，乾燥室だけの面積は長さ4 m，巾3.8 m　従って14.8 m^2 でありま

す。室内の構造は四角型で従ってワク掛も四角形に出来ております。釘のかんかくは，12 cm で水温気排出窓は長さ 1 m，高さ 30 cmで 4 ケ所に設けてあります。その外扇風機 1，バーナー付ストーブ 1，室内の側面はトタン板張りで天井はベニヤ合板張りで密閉してあります。

さて此の乾燥室は室の構造が四角形に出来ているため室内の熱風が円滑にせんかい出来ないのでストーブの周囲は 2 時間半位で乾燥致しますが，すみずみが全く乾燥出来ない現状であります。それで火入後 3 時間位でワクの場所交換を幾度も実施しなければなりません。それでも，全部の枚数が仕上がるまでだと 5 時間から 5 時間位必要です。次に水蒸気排出窓と温度と製品の関係で御座いますが，窓の取付方と取付場所によって製品の色・光択に非常に関係して参ります。此の窓の取付方では私達の所では毎日の雪降りと言っても過言ではないと思う程悪天候の日が多いので先進地のように窓を大きく開いて乾燥させる事はとても無理な事で御座います。

窓を大きく開くと外から風雪が入り，室内の温度が低下して仲々乾燥出来ません。又，そうかと言って窓を小さく開いておくと，ノリから発散する水蒸気が何時までも室内に停滞して湿度が高いので完全に乾燥するまでは 6 時間以上も要し，又製品の光択が全然出ないという結果になり，製品配置もなくなります。

次に改良を加えましたBについて申し上げますと，これは図表でおわかりかと思いますが，室の構造はAの場合の四角型の四角を無くして八角型に致しました。これによって貴重な熱風を円滑に，すみずみまで巡回出来ますのでむらなく乾燥致します。この改良を加えた事によってAのようにヲクの場所交換をする必要は御座いません。

次に水蒸気排出窓の取付ですが，Bの場合はAのように側面ではなく，長さ 1 m 50，高さ 40 cm，巾 40 cmの天窓 1 カ所としてこれは雪や雨が入らないようによろい窓に造って居りますので，全く開閉する必要はありません。ワク掛は八角型に出来ているので，釘の間隔は，内部 12 cm，外部 20 cm にして居るので，熱風は，外部にも良く廻ります。室内の側面はトタン板張りで温度を保持す。天井はベニヤ合板張りで岸の方は巾 10 cm程をあけて張ります。室内の水蒸気は自然に上昇して天窓より排出されますので，乾燥時間は 4 時間位で済みます。その上出来上った製品は色　光択ともに良好で高い価格で販売出来るわけであります。

最後にAとBの利害比較対照してみますと，此のようになります。これは 1 回の乾燥能力千 3 百枚の記録です。

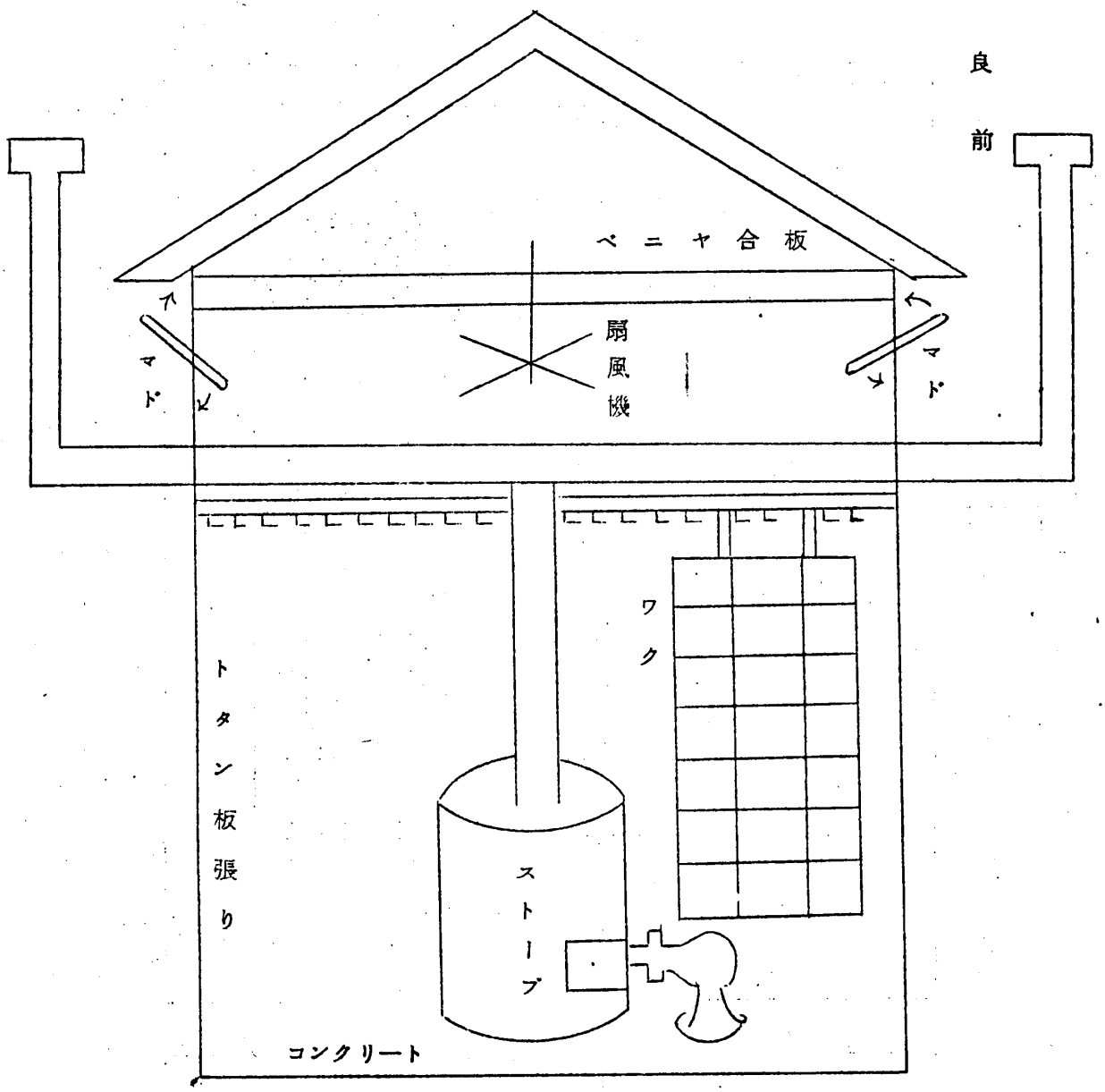
Aの場合	燃料 重重油	36リットル	計	563円
		510円		
	電気料	5キロワット		
		53円		
	製品1枚単価	8円		
	1,300枚	10,400円		
Bの場合	燃料 重油	22リットル	計	347円
		310円		
	電気料	3,5キロワット		
		37円		
	製品1枚単価	10円		
	1,300枚	13,000円		

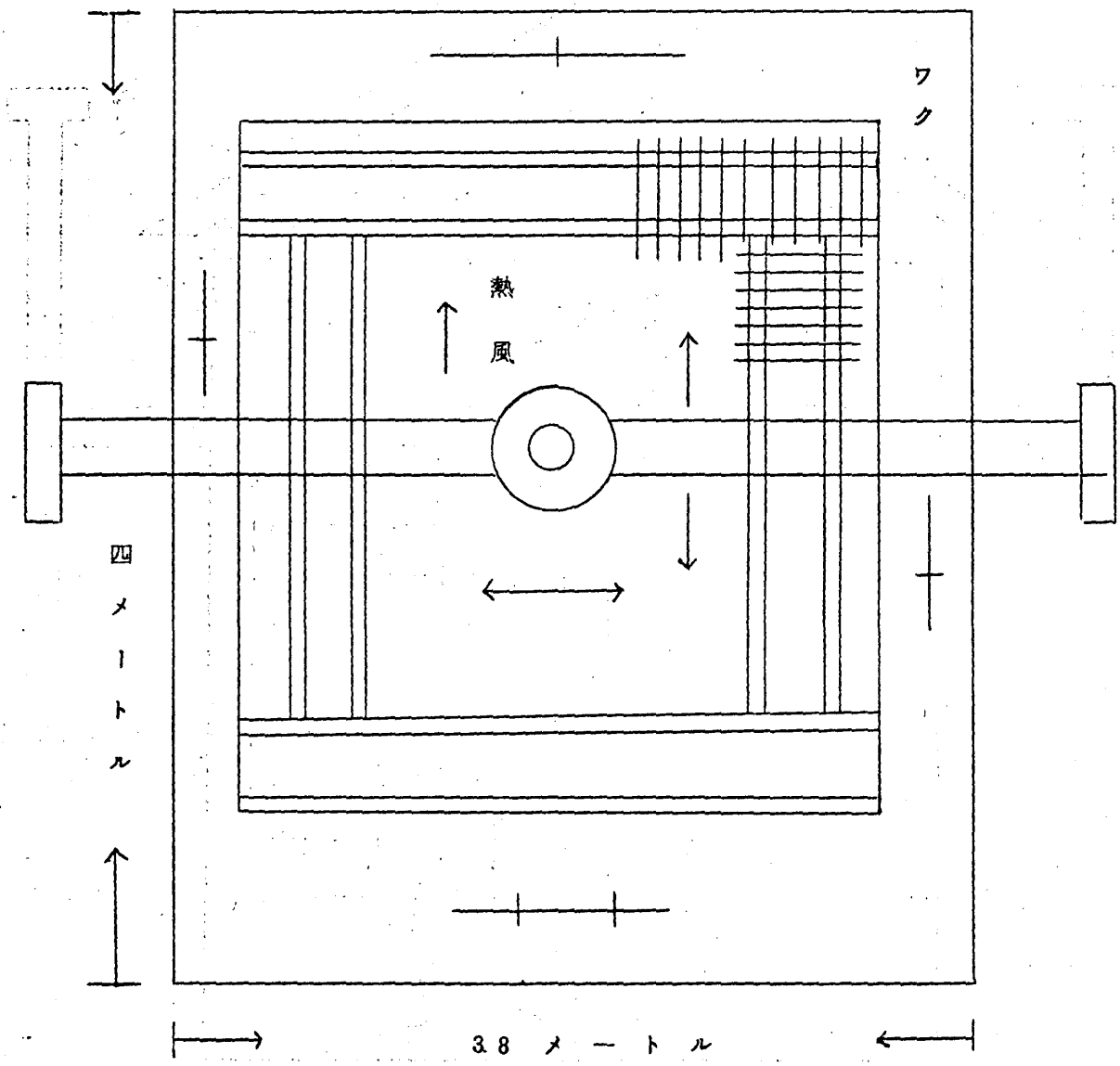
Aの場合においては，燃料費と電気料の合計金額は563円となり，Bの場合の燃料費と電気料の合せた経費金額は347円となり製品金額ではAに比べてBの方が2,600円増で経費の差額の216円プラスすると1回の乾燥だけでもBの方が2,816円の利益となります。此のように長い期間を通算して見ますといかに改良前がマイナスであったかわかります。

私達は今後も益々研究を重ねまして少ない経費で高収入へと進展して行く考えであります。

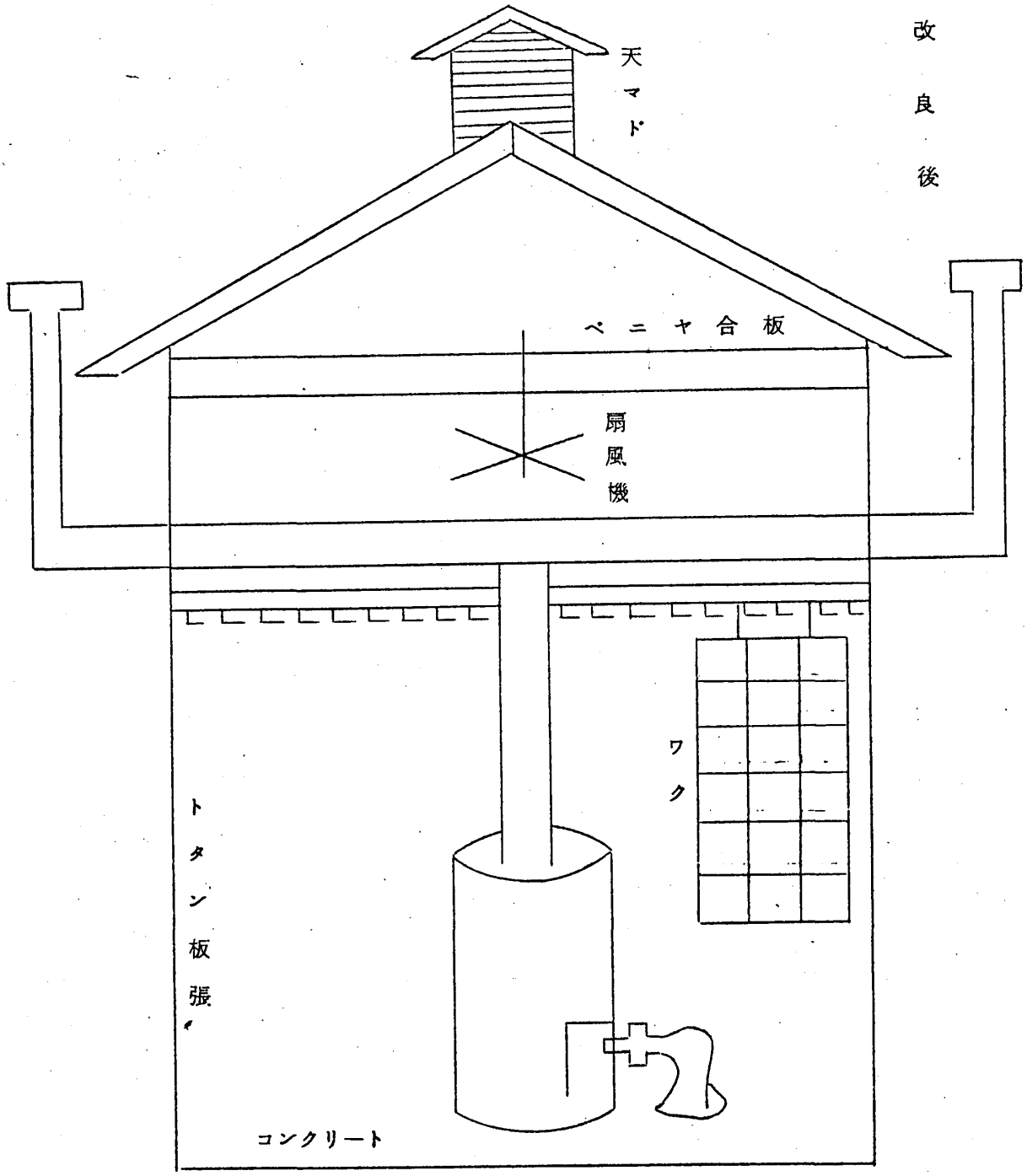
今後共皆様方の御指導と御協力をお願い申し上げて私の発表を終ります。

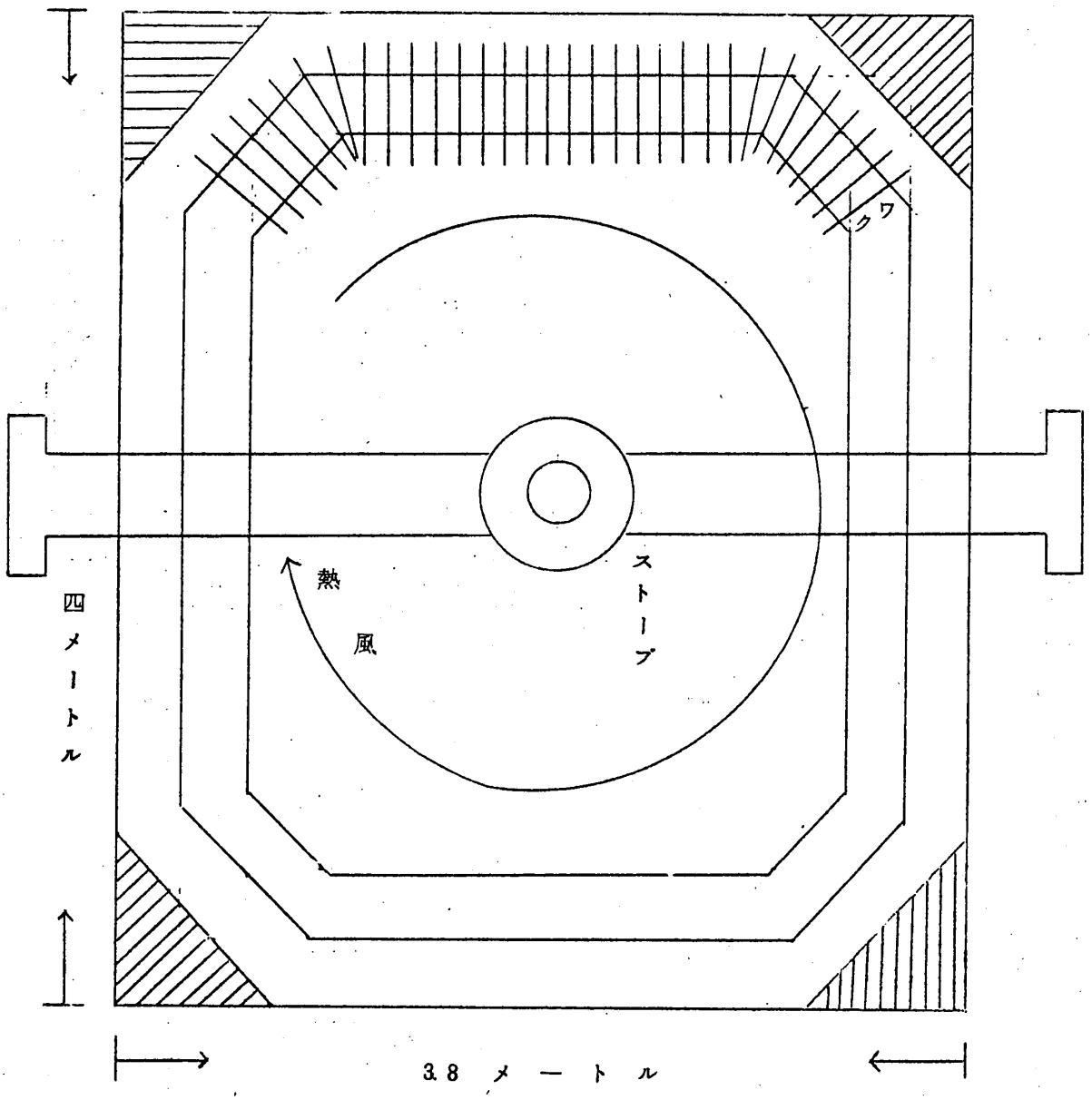
A 改良前




ワク
熱
風
四メートル
3.8 メートル

B 改良後




ワク
熱
風
ストーブ
四メートル
3.8 メートル

あかるい村づくりをめざして

十三あけぼの会　安　田　き　さ

私達の住んでいる十三は本県の西海岸七里長浜の北端にあります。夏は風景もよく県立公園の中に入っていますが，冬は季節風が吹き荒れ，十三名物の冬囲が軒なみに立てられ，見るからに寒々とした250戸の部落であります。

人口は約1,500人で村人の生業としては漁業の外，日雇，出稼，行商人と，それから最近は農業も行うようになって参りましたが，これまでは何としても出稼ぎが多いようでした。この為，時によっては村の中が空っぽの様な状態を呈し何となく沈んだ空気につつまれていました。

私達十三あけぼの会が，あかるい村づくりに協力すべく立上ったのが昭和36年で150名の賛同者を得て結成されています。

活動計画は改良普及員指導のもとに立案され，貯蓄活動や，水産加工又漁村婦人の地位の向上につとめる為の婦人講座などもやって参りましたが，いづれも研究的な段階で，これと言う大した成果も得ることなく今日に至っています。

慣れない水産加工には毎年会費を水産加工研究所に派遣して技術の習得につとめて参りましたが販路の面で困ったりして仙台方面まで出かけたりしたものでした。然しながら今年は会結成後もう4年目に入りましたので，これまでの研究を土台として，本格的な活動に入る為の活動計画をたて現在進んでいますが，皆様の御参考になるかどうかわかりませんが発表させていただき御批判を得たいと思います。

1. 貯蓄推進活動について

これまで会で取扱った1日10円貯金は総額160万円で，このうち約70万円が払戻しされています。この使途に関してアンケートをとって見ましたところ約50％が子供の就職進学にあてられ，残り50％のうち税金を納めるに20％，あとは家計費，家庭用品の購入其の他につかわれているようであります。貯金の要領は以前は10日毎に役員が班をまわって集金し，貯金部が集計していましたが，これも大変苦労なことなので役員の負担を軽くする為現在では毎月1回貯金全部で整理して親通帳によって預けらけ，個人の通帳は各人が保管し，原簿は会で保管していて毎月検査を受けています。

現在額90万円の内，50万円は利息の高い定期予金にしていて，残り40万円は必要に応じて払戻されるようにしてありますが，アンケートによりますとこの貯金が会員の為にも又村の為にも役立っていることがわかりましたので，今後も続けて伸していきたいと思っています。

2　水産加工活動について

これまで，ぼら，うぐいの味つけ加工や，はぜ焼き干し，はぜこんぶ巻きなどもやって見ましたが，いずれも手数のかかる割合に販路の面で行きづまったり，又会員の労力を可なり必要とする点から伸びなやんでいましたが，県や村の助成によって組合加工場として昨年くん製炉二基が出来上りましたので，本年はぼら，うぐいのくん製1本に絞って実施しています。ぼら，うぐいは夏期間大変値が下りますので，魚価を高める為には是非必要なものと考えられ現在まで約1,200キロ程が加工されています。このくん製品は軽味で油臭くなく美味なものですが当初は塩加減などで失敗もありました。おそるおそる附近農村に出して見ましたところ，シ■ッパイロの津軽衆には大変受けたようで次から次へと注文がきていますので，明るい見通しと自信を得るようになりました。又会員の労力も生のものを調理して漬込むだけであとはくん製炉に掛けるだけの作業となり，いぶしは火をあつかう責任上から組合の職員が協力してくれていますので大変助かります。

現在冷くん法で2週間乃至3週間の日数をかけていますが，来年の観光シーズンには温くん法でも行って見たいと思っています。仕上げや包装については今後大いに勉強しなければならないと思っていますが，今までのところ原価の約3倍になるようであります。

3.　観光地育成活動について

十三は東に十三湖を控え，水戸口をへて西に日本海を望む景勝の地で夏期間は観光客も多く来るようになりましたが，これと言う施設施策もないまま放置されているように見受けられています。

観光資源も十三の発展にとっては大きな価値あるものと考えられ，これの育成にも協力して参りました。本年4月会の予算20,000万円を投じて桜木100本を十三湖岸に植えつけました。

農林事務所からも指導に来られ立派に根づきました。2年木ですが5月中旬頃たった一輪ですが，桜の花が咲き会員達を喜ばせました。今後100本位づつ毎年植樹することにしていて，十三湖を桜で色どる，十三湖1,000本桜の計画で進んでいます。

この事業は私の様な年老いた者が十三湖の桜の満開などを見ることができないかも知れませんが，私達の子供が，私達の孫が十三の風景を愛し，平和な住みよい村としてほこりを持つであろうことを心にえがいて進んでいるものであります。

4. 十三だよりの発行について

十三からは本年260名の出稼があり，それに県外就職者が可なりの数にのぼっているようであります。あけぼの会ではこれ等の人々を慰め，又愛郷心をたかめる意味において村の様子を知らせる十三だよりを発送いたしました。年に4回程発送する計画で本年に入ってすでに2回行っていますが，現地からは大変感謝している旨便りが入っています。

その1部を御紹介いたしますと「私五所川原にいたときは時々家に帰ることができたので，村の事がわかりますが，遠く横浜市に来て見ると故郷が思出され，村の様子などを知りたいと思っていましたが，この度貴会からの送られた十三だよりを見て村の事が詳細知ることが出来大変なつかしく思っています。私共も遠い旅先で頑張りますから皆さんも村の為頑張って下さい。次号をたのしみにしています。」と言う意味のことが書かれてあり，10円切手10枚同封されて来ましたが，私はこれを見て涙の出る程嬉しく感じました。

5. 会の運営其の他について

以上申しのべました外に会の事業としては研修活動，農業経営の単の農業講座購買事業なども行っていますが，会を運営する単には何と言っても資金がいることであります。

私達の会では地域婦人会や其の他の団体が行っているような会費の徴収は行っていません。

その代りといってはおかしいようですが，会が行っている10円貯金の利息を会の運営費にあてていることであります。このことは会員個々の承諾を得ている外年度の総会において使途をはっきりさせていることで，本年度は事業計画全般に亘って使用していいことを承認を得ていますが，大部分は研修旅行費にあてられていることで本日もこの会場には100人の会員が参加しているのであります。

ただ，貯金額が各人毎に差があるので其のバランスをとを為には優良貯蓄者には賞を与える措置をとっています。

本年度の収入予算は貯金利子，指導機関よりの助成金，加工品売払益金，購買事業益金などで 15

万円を見こんでいます。

支出は加工研究費，研修費，植樹費，広報費，集会費など15万円で収入支出のバランスをとった計画をたてていますが，微々たるもので皆さんの会から見ればお話にならないかも知れません。

6. 結　　言

以上申し上げましたが，現去の十三が国や県の御指導によって漁業の開発にも，農業の開発にも，或は又観光開発についても発展の途上にあるものと考え，私達十三あけぼの会としては益々結束して明るい村づくりに協力していきます。

十三の人々が農業に励み，漁業を楽しみ，そして美しい風景にしたしむ平和で豊かな明るい姿を夢に見ながら進んでいきます。

終りに私達を御指導下さいました県ならびに村当局，又組合に対し心から感謝を申し上げ私の発表を終らせていただきます。

我が研究グループの歩み

深浦漁業研究会　中　川　三　蔵

私達の研究発表として完成された点がありませんが，春から現在迄歩んで来ました事を申述べてみたいと思います。先づ私達の住んでいる深浦町の漁業の概要から申上げますと，組合員数381名，漁船数は総計172隻で，内訳として5噸未満152隻，5～10噸，15隻，10噸しては5隻となっています。

漁業の種別は別表1のとおり大謀網，底曳網，久六島漁業，磯漁業，海藻漁業に分れており，之等の総水揚高は1億1000万円程度となっています。之等の順位も大謀網，底曳網が大半上位を占め5噸未

別表1.　地域海業の概要

漁業種別	漁期	魚種名	従事数	備考
大謀網	4～1月	タイ，スズキ，ブリ	2ケ統	
底曳網	9～6月	カレイ，ヒラメ，サメ	5隻	
久六島漁業	4～8月	サザエ，アワビ	3ケ統	
磯漁業	1～12月	ヤリイカ，アイナメ，ソイ，タイ，タナゴ，ガサ	200ケ統	
海藻漁業	4～8月	ワカメ，ツノマタ，エゴ	339ケ統	

満階層で成立っている磯漁業としては約3,700万円程の水揚げであるが，別表のとおり操業統数が多数であるため，1ケ統当り18万5.000円となっており，経営も余り楽ではない訳です。私達研究グループも之らの磯漁業を少しでも振興させる目的で去る昭和36年6月に結成されたものですが，最近海流異動かその他のため漁海況が不安定となり，それのしわよせが特に私たち磯漁業者の少からぬ影響を与え日夜之が対策に腐心している次第であります。先づ今春4月21日に予ねての積立金を利用して，深

浦漁協の援助も得まして新潟県佐渡ケ島に出掛けてわかめの加工，その他の技術を研修し，その帰途山形県温湯市に立ち寄り，同地で古くから行われているほたるいかを餌料とするタイの浮処縄の技術研修を地元漁業研究会員らの技術交流を兼ねて行い，又同地の人才の御世話によって富山県の滑川市のほたるいかの餌料販売業者から15 Kg詰めのもの，2缶譲り受けて来ました。之を後日深浦前沖で試験操業しましたが，ソイ2～3屯，サメ1尾獲っただけであり，此の処縄の技術の研究の末だ余地が残されています。そのうちに5月3日は深浦のわかめの口開けであり，一般漁業組合員は国より私達研究会員も未に自分の船を操って努力を続けましたが，単価は3.75 Kg当り1,300円程で案外好かったのですが，収穫の才は例年の$\frac{1}{3}$の3,000 Kg台に止まった次第です。

又本年は此時分のガサ（メバル），タナゴ等の漁も案外良くなく，私たち研究会員の人才も和船を曳いて遠く久六島周辺へわかめ採りに出掛ける船も出て来ました。その内一般の漁況の振わない内に7月を迎へ，同月20日から恵胡藻の口開けとなり，私たちもさきのわかめの不作を挽回する目的で恵胡藻に努めましたが之もわかめ仝様大不作で例年なら3万Kgもとれたものが本年は例年の$\frac{1}{20}$の1,800 Kg程度に終った。その時分から私達研究会員から深浦港から海上28浬の久六島周辺の最近群泳しているメヂマグロ類が話題となっておった。7月22日秋田県岩館落でメヂが20～30本水揚げの報を聞き私たち会員は7月24日地元普及員と一緒に岩館港に出向き，同港で現在使用の漁具行漁法の教示を受けた。その結果，同港では主として毛ばり（擬餌針）を使っており，之等は神奈川県三崎方面から購入しており，その他生き餌としてはトビウオ，イカを用いており，道糸は白色や青色のものより茶褐色のも（東洋レイヨン製）のもののが宜敷しく，亦も針の場合はエンヂンは全速でやった方が宜敷しいとか，可成り詳しい教えを受けた。7月25日には前日岩館港へ行けなかった者にも岩館港の漁法の説明を行った。自分の船に生き餌（トビウオ等）を収容す生簀を作るもの，県内青森市の釣目店から針ナイロンテグスを購入する者等で出漁を急いだ訳です。その結果は別表2のとおりとなっています。

別表2　　操　業　成　績　表

（39年7月26日 / 39年8月 4日 の間9日間）

番号	月　日	操業隻数	水揚数量	水揚金額	1隻当り水揚金額	操業日別漁獲物重量 マグロ	操業日別漁獲物重量 ブリ
1	39. 7. 26	隻 1	Kg 5.80	円 1,972	円 1,972		
2	39. 7. 28	2	48.60	15,744	7,872	最大28.00Kg 平均14.1Kg 最小 6.0 Kg	6.20 Kg
3	39. 7. 29	1	55.60	18,012	18,012	最大28.00Kg 平均18.5Kg 最小10.60Kg	最大6.60Kg 平均5.87Kg 最小4.80Kg
4	39. 7. 30	2	78.20	17,195	8,598	最大26.60Kg 平均26.1Kg 最小25.40Kg	
5	39. 7. 31	2	153.10	32,502	16,251	最大37.40Kg 平均25.5Kg 最小16.60Kg	
6	39. 8. 1	2	85.00	20,532	10,266	最大28.00Kg 平均21.4Kg 最小 8.60Kg	
7	39. 8. 2	6	332.00	79,137	14,383	最大32.60Kg 平均22.0Kg 最小 4.2 Kg	
8	39. 8. 3	3	224.00	52,921	17,641	最大34.60Kg 平均28.0Kg 最小14.60Kg	6.60 Kg
9	39. 8. 4	3	134.00	31,638	10,546	最大43.60Kg 平均22.3Kg 最小 8.20Kg	
計		22	1,116.90	269,653	1隻平均 11,726		

即ち初日の7月26日は5.80Kg程のビン長鮪であったけれども第2日目の7月28日以降は順調な水揚げを続けて来ており，5日目の7月31日には4日目の倍近い153Kgの水揚げが記録された。

なお，又針は岩館港の場合毛針が良かったが，此処では毛針より寧ろ生き餌（主としてトビウオ，イカ）の方が喰付きが良好であり，殆んど生き餌に依るものである事が対照的である事を申添える。

なお，この漁獲高の方は7日目には隻数が次第に殖え6隻となり332Kg，8日目は224Kgの水揚げと

なっており，久六島周立は海水が寧ろ澄んでおった方が喰付きもよくよい漁獲が挙げられておった。最終は8月4日となっており，此頃からポチポチトビウオも獲れなくなって来ておった訳です。なお又此操業成績表によって，本年は最初で各船の操業方法の上手，下手もあり1日1隻当り最高18,012円最低8,598円，平均では11,726円となっています。明年は今年の経験から漁期前から準備を整へるならば，本年の総水揚高269,653円を続く成績は必らず挙げられる事と信ずるものです。

別表3　各船別操業成績表

船名	総水揚金額	(総水揚数量)	操業日数	1日当り水揚金額	備考
A丸	132,082円	(540.80Kg)	8日	16,510円	
B丸	42,817	(245.40)	5	8,563	
C丸	29,956	(62.80)	3	9,985	
D丸	31,196	(129.90)	3	10,398	
E丸	13,850	(66.80)	1	13,850	大戸瀬漁協　木支所関係のもの
F丸	10,885	(38.60)	1	10,885	
G丸	8,867	(32.60)	1	8,867	
計	269,653	(1,116.90)	22	平均9,666	

なお別表3は本年の操業各船別の成績を操業月日順に記載したものである。就中A丸に於いては8月2日には鮪7本程水揚げし，此日1日丈けで36,290円の水揚げをしており，特筆される訳です。又E丸の如き深浦町隣接の大戸瀬漁協　木支所管内の船も遠く久六島周辺へ進出してマグロを漁獲しに来ると事実も着目されてよいと考へます。今迄マグロは定置網でしか獲られないと云う観念から脱却して曳釣りに依っても私たちの手で獲れるのだと云う考えを持ち今年僅か9日間の操業成績であるが，非常に私たちに明るいものを与えて呉れた事は否む事の出来ない事実であった訳です。斯様な事柄から深浦浦漁協では8月11日に青森県水試山形課長（元大間町駐在普及員）を招き，下北に於けるマグロ曳釣

の実地講習会を開き非常に盛会であった。私たち研究会員も六年の斯様な経過を振り返って来年こそは久六島周辺の漁況に特に留意，又マグロの習性等よく調べて，又一本釣に是非必要な生き餌（トビウオ，イカ等）の事前確保を行い，又お互いに先進地の技術を参考にし，此の技術を久六島周辺の漁場に高度に発揮する事を目標に私たちは絶えず前進を続けて行き度いと念ずる者です。今後共私たち研究グループの指導を県庁及県水試の皆様方にお願い致しまして私の発表を終り度いと思います。